

# 資料編



# 資料編 1 指標一覧

※ ( ) 内の計画策定時の値は、把握する調査が中間評価時の値と異なるなどにより、評価ができないため、最終評価では、中間評価時の値と最終評価時の値で評価する。

## 【栄養・食生活】

項目	指標	計画策定時の値	中間評価時の値	目標	中間評価時の値の出典	全国		
						計画策定時の値	中間評価時の値	目標
適正体重を維持している人の増加	20～60歳代男性の肥満者の割合	25.3%	27.4%	23%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	31.2%	32.4%	28.0%
	40～60歳代女性の肥満者の割合	16.3%	15.6%	14%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	22.2%	21.6%	19.0%
	20歳代女性のやせの人の割合	20.2%	30.3%	15%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	29.0%	20.7%	20.0%
	定期的に体重を量る人の割合	(66.6%)	59.1%	73%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—
適切な量と質の食事をとる人の増加	食塩の1日あたり平均摂取量	9.5g	9.8g	8g	2016年(平成28年)札幌市健康・栄養調査	10.6g	9.9g	8g
	野菜の1日あたり平均摂取量	293g	288g	350g	2016年(平成28年)札幌市健康・栄養調査	282g	277g	350g
	果物の1日あたり摂取量が100g未満の人の割合	53.1%	66.5%	30%	2016年(平成28年)札幌市健康・栄養調査	61.4%	60.5%	30.0%
	主食、主菜、副菜を組み合わせた食事をとる人の割合	(53.0%)	38.7%	62%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	68.1%	59.7%	80.0%
	外食料理栄養成分表示などを参考にするとる人の割合	37.1%	53.8%	80%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—
健康な生活習慣(栄養・食生活)を身に付けている青少年の増加	毎日3回の食事をしている幼児の割合	現状値なし	97.0%	100%	2016年(平成28年)札幌市乳幼児健康診査(3歳児健診)	—	—	—
	毎日朝食をとる小学6年生の割合	86.0%	85.0%	100%	2017年(平成29年)度文部科学省「全国学力・学習状況調査」	88.1%	86.9%	—
	毎日朝食をとる中・高生の割合	76.5%	84.1%	100%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—
	毎日朝食をとる20歳代男性の割合	39.5%	40.6%	70%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—
	朝食を誰かと一緒にとる子どもの割合	小学5年生 79.7% 中学2年生 65.3%	80.2% 67.0%	90%	2017年(平成29年)札幌市の児童生徒の実態に関する基礎調査	15.3% 33.7%	11.3% 31.9%	減らす 減らす
適正体重の子どもの増加	小学5年生の中等度・高度肥満傾向児の割合	男子	6.8%	6.3%	(中間評価時の値から)減らす 2016年度(平成28年度)学校保健統計調査	4.6%	4.55%	減らす
		女子	3.9%	3.9%		3.4%	3.75%	減らす
低栄養傾向(BMI20以下)にある高齢者の減少	低栄養傾向(BMI20)以下にある70歳代の割合	17.2%	15.6%	17%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—

指標の見直し

目標値の見直し

## 【身体活動・運動】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国				
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標		
運動に取り組む人の増加	運動習慣のある人の割合	男性	28.1%	33.5%	38%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	34.8%	35.1%	20~64歳 36% 65歳以上 58%	目標値の見直し
		女性	28.4%	27.2%	38%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	28.5%	27.4%	20~64歳 33% 65歳以上 48%	
	意識的に運動している15歳以上の人の割合	男性	48.7%	59.5%	61%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	
		女性	47.7%	51.1%	53%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	
日常生活における歩行時間の増加	20歳以上の日常生活における1日あたりの歩行時間	男性	—	—	90分	—	—	—	指標の見直し	
		女性	—	—	80分	—	—	—	指標の見直し	
運動習慣のある子どもの増加	体育の時間を除く1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合(小学5年)	男性	7.7%	6.0%	減らす	文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」	10.5%	6.5%	減少傾向へ	指標の見直し
		女性	19.3%	11.4%	減らす	文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」	24.2%	11.6%	減少傾向へ	指標の見直し
外出に積極的な60歳以上の人の増加	外出に積極的な60歳以上の人の割合	男性	62.1%	68.1%	70%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	指標の見直し
		女性	71.0%	70.6%	78%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	
高齢者の日常生活における歩行時間の増加	70歳以上の日常生活における1日あたりの歩行時間	男性	—	—	70分	—	—	—	指標の見直し	
		女性	—	—	70分	—	—	—	指標の見直し	
ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を知っている人の増加	ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を知っている人の割合	現状値なし	38.1%	80%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	17.3%	47.3%	80.0%		

## 【休養】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国			
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	
睡眠による休養を十分に取れていない人の減少	睡眠により疲労がとれない人の割合	23.3%	28.6%	16%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	18.4%	19.7%	15.0%	指標・目標値の見直し
ストレスを感じている人の減少	ストレスを感じている人の割合	21.1%	25.9%	減らす	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査(「おおいにある」のみ)	—	—	—	
悩みを相談する人がいない人の減少	悩みを相談する人がいない人の割合	6.2%	4.6%	4.4%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	—	—	—	

## 【飲酒】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国				
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標		
生活習慣病 のリスクを高 める量を飲酒 している者の 割合の減少	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(1日の平均純アルコール摂取量を男性:40g以上、女性:20g以上と定義)	男性	-	-	13%	-	15.3%	14.6%	13%	指標の 見直し
		女性	-	-	6.4%		7.5%	9.1%	6.4%	指標の 見直し
未成年者の 飲酒をなくす	未成年者の飲酒の割合	8.3%	3.8%	0%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	中1男子 10.5% 中1女子 11.7% 高3男子 21.7% 高3女子 19.9%	中1男子 7.2% 中1女子 5.2% 高3男子 13.7% 高3女子 10.9%	0%		
妊婦の飲酒 をなくす	妊婦の飲酒の割合	17.1%	6.7%	0%	2017年(平成29年)母子保健に関する市民意識調査			8.7%	4.3%	0%

## 【喫煙】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国				
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標		
喫煙率の低 下	成人の喫煙率	成人	20.5%	17.4%	10%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	19.5%	18.3%	12.0%	
		男性	30.6%	25.2%	15.5%		32.2%	30.2%	-	
		女性	13.1%	11.9%	6.3%		8.4%	8.2%	-	
受動喫煙の 機会を有する 人の減少	受動喫煙の機会を有する人の割合	家庭	現状値 なし	14.9%	3%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	10.7%	7.7%	3.0%	
		職場		20.8%	受動喫煙 のない職 場の実現		64.0%	-	受動喫煙 のない職 場の実現	
		飲食店		44.9%	15%		50.1%	42.2%	15.0%	
		行政機関		3.1%	0%		16.9%	8.0%	0%	
		医療機関		3.9%	0%		13.3%	6.2%	0%	
COPD(慢性 閉塞性肺疾 患)の認知度 の向上	COPD(慢性閉塞性肺疾患)を知っている人の割合	現状値 なし	40.3%	80%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	25.0%	25.5%	80.0%		
未成年者の 喫煙をなくす	未成年者の喫煙率	1.7%	1.0%	0%	2017年(平成29年)健康づくりに関する市民意識調査	中1男子 1.6% 中1女子 0.9% 高3男子 8.6% 高3女子 3.8%	中1男子 1.0% 中1女子 0.3% 高3男子 4.6% 高3女子 1.5%	0%		
妊婦の喫煙 をなくす	妊婦の喫煙率	8.4%	3.4%	0%	2017年(平成29年)母子保健に関する市民意識調査	5.0%	3.8%	0%		
妊婦の受動 喫煙をなくす	妊婦の受動喫煙に配慮する人の割合	【策定時 33.3%】 68.5%	93.4%	100%	2017年(平成29年)母子保健に関する市民意識調査	-	-	-		
子どもの受動 喫煙をなくす	育児期間に受動喫煙に配慮する人の割合	【策定時 34%】 76.4%	95.2%	100%	2017年(平成29年)母子保健に関する市民意識調査	-	-	-		

## 【歯・口腔の健康】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国		
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標
むし歯のない 3歳児を増やす	むし歯のない3歳児の割合	80.1%	85.4%	90%	2016年(平成28年)3歳 児歯科健康診査結果	77.1%	—	90.0%
むし歯のない 12歳児を増やす	むし歯のない12歳児の割合	47.0%	57.1%	65%	2016年度(平成28年 度)学校保健統計調査	54.6%	—	65.0%
40歳で歯周 炎を有する人 の減少	40歳で歯周炎を有する人の割合	44.6%	48.4%	37%	2016年度(平成28年 度)歯周疾患検診	37.3%	28.0%	25.0%
60歳で歯周 炎を有する人 の減少	60歳で歯周炎を有する人の割合	56.0%	60.6%	45%	2016年度(平成28年 度)歯周疾患検診	54.7%	51.6%	45.0%
60歳で24本 以上歯を有 する人の増加	60歳で24本以上歯を有する人の割合	62.5%	77.3%	90%	2016年度(平成28年 度)歯周疾患検診	60.2%	65.8%	70.0%
70歳代で咀嚼 良好者の増加	70歳代で咀嚼良好者の割合	現状値 なし	66.3%	75%	2017年(平成29年)健康 づくりに関する市民意 識調査	—	—	—

目標値  
の見直し

## 【健康行動】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国			
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	
がん検診受 診率の向上	がん検診 受診率	胃 が ん	男性	38.4%	48.3%	2016年(平成28年)厚 生労働省国民生活基礎 調査(札幌市分)	36.6%	46.4%	50.0%
			女性	27.4%	30.6%		28.3%	35.6%	50.0%
		肺 が ん	男性	27.2%	46.2%		26.4%	51.0%	50.0%
			女性	17.8%	31.7%		23.0%	41.7%	50.0%
		大腸 が ん	男性	30.5%	45.7%		28.1%	44.5%	50.0%
			女性	23.9%	31.5%		23.9%	38.5%	50.0%
		子宮 が ん	女性	41.5%	43.0%		37.7%	42.4%	50.0%
乳 が ん	女性	42.7%	41.4%	50%	39.1%	44.9%	50.0%		
特定健康診 査実施率、特 定保健指導 実施率の向上	特定健康診査実施率 (国民健康保険分)		17.6%	20.3%	31.0%	2016年度(平成28年 度)法定報告値:札幌市 国民健康保険	—	—	—
	特定保健指導実施率 (国民健康保険分)		7.4%	9.1%	23.0%		—	—	—
かかりつけ小 児科医がいる 子どもの増加	かかりつけ小児科医がいる子 どもの割合	93.2%	90.8%	100%	2017年(平成29年)母 子保健に関する市民意 識調査	—	—	—	
かかりつけ医 を決めている 市民の増加	かかりつけ医を決めている市 民の割合	51.4%	61.6%	70%	2016年度(平成28年 度)第1回市民意識調 査	—	—	—	
小児科の救 急医療機関 を知っている 人の増加	小児科の救急医療機関を知っ ている人の割合	89.9%	90.6%	100%	2017年(平成29年)母 子保健に関する市民意 識調査	—	—	—	

目標値  
の見直し

目標値  
の見直し

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国		
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標
予防接種率の向上	麻しん・風しん混合(MR)ワクチンの第Ⅱ期予防接種率	92.4%	90.1%	95%	2017年度(平成29年度)実績	—	—	—
HIV感染者届出数のうち、発病数からの減少	HIV感染者届出数のうち、発病してからの届出数の割合	37.5%	25.0%	30.9%	2017年度(平成29年度)実績	—	—	—
インフルエンザ予防接種を受ける65歳以上の人の増加	インフルエンザ予防接種を受けた65歳以上の人の割合	49.6%	45.1%	51.1%	2017年度(平成29年度)実績	—	—	—

## 【親子の健康】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国			
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	
未受診妊婦の減少	初診が妊娠21週以降の届出数	—	168	減らす	母子保健情報システム(2016年(平成28年))	—	—	—	指標の見直し
安心して育児ができる母親の増加	子育てに自信が持てない母親の割合	(25.8%)	8.5%	減らす	2017年(平成29年)母子保健に関する市民意識調査	4か月健診 19.3%	—	—	目標値の見直し
	父親の育児参加に満足する母親の割合	27.0%	26.9%	30%		1歳6か月健診 24.8%	—	—	
	育児支援ネットワーク事業を活用した医療機関の数	33	63	86	2016年度(平成28年度)保健と医療が連携した育児支援ネットワーク事業実施報告	—	—	—	指標の見直し
	育児期間に受動喫煙に配慮する人の割合【再掲】	76.4%	95.2%	100%	2017年(平成29年)母子保健に関する市民意識調査	—	—	—	新規
乳児のSIDS(乳幼児突然死症候群)による死亡率の減少	乳児のSIDS(乳幼児突然死症候群)による死亡率(出生10万対)	62.1	49.9	減らす	2017年(平成29年)札幌市衛生年報(2016年(平成28年)統計)	13.9	11.2	—	
不慮の事故による乳幼児死亡の減少	心肺蘇生法を知っている親の割合	34.8%	29.7%	100%	2017年(平成29年)母子保健に関する市民意識調査	—	—	—	
	事故防止の工夫をしている家庭の割合	29.1%	4か月児: 27.6% 10か月児: 42.3% 1歳6か月児: 36.0% 3歳児: 20.1% 全体: 31.4%	100%		38.2%(参考)	—	—	
低出生体重児の割合の減少	全出生数中の低出生体重児の割合	9.6%	9.4%	減らす	2017年(平成29年)札幌市衛生年報(2016年(平成28年)統計)	9.6%	9.4%	減らす	

項目	指標	計画策 時の値	中間評 時の値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国				
						計画策 定 時の値	中間評 価 時の値	目標		
児童虐待の 予防	乳幼児揺さぶられ症候群の危 険について知っている乳児を 育てる親の割合	現状値 なし	94.7%	100%	2017年(平成29年)母 子保健に関する市民意 識調査	94.3%	—	100.0%	目標値 の見直し	
	虐待していると思うことがある 親の割合	(5.8%)	9.0%	減らす	2017年(平成29年)母 子保健に関する市民意 識調査	—	—	—		
		3から4か月	(3.2%)		3.8%	2017年(平成29年)母 子保健に関する市民意 識調査	—	—		—
		10か月	(2.8%)		5.7%	2017年(平成29年)母 子保健に関する市民意 識調査	—	—		—
		1歳6か月	(6.8%)		11.3%	2017年(平成29年)母 子保健に関する市民意 識調査	—	—		—
		3歳	(10.8%)		16.0%	2017年(平成29年)母 子保健に関する市民意 識調査	—	—		—
	育児支援ネットワーク事業を活 用した医療機関の数【再掲】	33	63	86	2016年度(平成28年 度)保健と医療が連携し た育児支援ネットワー ク事業実施報告	—	—	—	指標の 見直し	
10歳代の望 まない妊娠の 減少	10歳代の人工妊娠中絶実施 率(人口千対)	12.0	9.2	5.0	2017年(平成29年)札 幌市衛生年報(2016年 (平成28年)統計)	7.1	5.0	6.0	目標値 の見直し	
	避妊法を正確に知っている人 の割合	34.6%	35.0%	40.0%	2017年(平成29年)10 代の健康に関する市民 意識調査	17.9%	—	—		
10歳代の性 感染症罹患 率の減少	10歳代の性器クラミジア感染 症の定点医療機関における1 か月の患者数	1.02	0.87	0.82	2017年(平成29年)感 染症発生動向調査	2.92 (参考)	—	減少	目標値 の見直し	
	性感染症と予防行動について 正しい知識を持つ人の割合 (16～19歳)	現状値 なし	41.7%	増やす	2017年(平成29年)10 代の健康に関する市民 意識調査	—	—	—		
薬物への正 しい知識を持 つ人の割合 の増加	薬物乱用の有害性について正 しい知識を持つ人の割合(16 ～19歳)	現状値 なし	93.7%	100.0%	2017年(平成29年)10 代の健康に関する市民 意識調査	—	—	—		



## 【全基本要素の取組結果に対する総合的な成果指標】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国				
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標		
がんによる死 亡率の減少	75歳未満のがん年齢調整死 亡率(人口10万対)	92.6	85.9	70.3	2016年(平成28年)人 口動態統計	84.3	76.1	減少傾 向へ	目標値 の見直し	
循環器疾患 による死亡率 の減少	脳血管疾患の年齢 調整死亡率(人口10 万対)	男性	41.7	35.7	35.1	2016年(平成28年)人 口動態統計	49.5	36.2		41.6
		女性	21.6	18.9	19.8		26.9	20.0		24.7
	虚血性心疾患の年 齢調整死亡率(人口 10万対)	男性	26.7	19.7	23	2016年(平成28年)人 口動態統計	36.9	30.2		31.8
		女性	8.9	8.4	8		15.3	11.3		13.7
	メタボリックシンドローム該当 者および予備群の割合 (国民健康保険分)		25.2%	24.0%	減らす	2016年度(平成28年 度)札幌市国民健康保 険特定健康診査	—	—		—
	過去1年間に検診で 高血圧症(血圧が高 い)と指摘を受けた 人の割合	男性	45.8%	38.7%	37%	2017年(平成29年)健 康づくりに関する市民意 識調査	—	—		—
		女性	41.9%	33.6%	32%		—	—		—
	過去1年間に検診で 血中の脂質異常と指 摘を受けた人の割合	男性	59.4%	58.2%	51%	2017年(平成29年)健 康づくりに関する市民意 識調査	—	—		—
		女性	69.6%	73.7%	60%		—	—		—
	過去1年間に検診で 糖尿病(血糖値が高 い)と指摘を受けた 人の割合	男性	17.5%	21.4%	11.5%	2017年(平成29年)健 康づくりに関する市民意 識調査	—	—		—
		女性	11.1%	10.6%	5.5%		—	—		—

## 【ソーシャルキャピタル(社会とのつながり)に関する成果指標】

項目	指標	計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	中間評価時の 値の出典	全 国			
						計画策 定時の 値	中間評 価時の 値	目標	
お互いに助 け合っている と思う市民の 増加	お互いに助け合っていると思う 市民の割合	(42.1%)	35.2%	65%	2017年(平成29年)健 康づくりに関する市民意 識調査	50.4%	55.9%	65%	
地域活動等 に参加してい る60歳以上 の人の増加	地域活動等に参加し ている60歳以上の 人の割合	男性	37.9%	34.3%	46%	2017年(平成29年)健 康づくりに関する市民意 識調査	64.0%	62.0%	80%
		女性	42.3%	41.3%	50%		55.1%	60.2%	80%

## 資料編 2 各分野の取組方針と実現に向けて取り組むこと

### 【栄養・食生活】

#### 取組方針

- 適切な量と質の食事をとる人を増やします。→ **強化**
- 適正体重を維持している人を増やします。→ **強化**
- 健康的な生活習慣（栄養・食生活）を身に付けている青少年を増やします。
- 適正体重の子どもを増やします。
- 低栄養傾向にある高齢者を減らします。

#### 実現に向けて私たちが取り組むこと

##### 市民

- 栄養バランスのとれた食生活を実践します。
- 栄養成分表示を活用します→ **変更**
- 減塩を意識し、うす味の食事にします。→ **強化**
- 適正体重を知ります。→ **強化**
- 家族や仲間などと楽しく食事をします。
- 子どもの頃から健康的な食習慣を身につけます。

##### 地域

- 食事会などの町内会活動を通じて、食事への関心を高めます。
- 身近な地域で、誰でも参加できる健康料理教室などを開催します。→ **強化**
- 食育ボランティア（食生活改善推進員等）に登録し、活動します。

##### 企業・関係機関

- 健康的な食生活について普及啓発します。→ **強化**
- 食育イベントに協力します。
- 栄養成分表示の店に登録します。→ **強化**
- ヘルシーメニューを提供します。
- 健康的な事業所給食の提供に努めます。→ **強化**

#### 行政

##### 市民に向けて

- 減塩やバランスのよい食事など、健康的な食生活について普及啓発します。→ **強化**
- 朝食の重要性について、普及啓発します。
- 家族や仲間などと楽しく食べる重要性について普及啓発します。
- 乳幼児期からの健康的な食生活について普及啓発します。
- 女性の「やせ」の妊娠、出産への影響について普及啓発します。
- 高齢者の栄養に関する知識を普及啓発します。

##### 地域に向けて

- 身近な地域で、減塩などの健康教室の開催を支援します。→ **強化**
- 調理実習を含む講習会などの開催を支援します。
- 食生活改善推進員を養成し、活動を支援します。

##### 企業・関係機関に向けて

- 健康的な食生活を支援するための環境整備を支援します。
- 健康的な食生活についての普及啓発を支援します。
- 外食・加工食品からの栄養情報発信について普及啓発を行います。→ **強化**
- 特定給食施設への情報提供を行います。→ **強化**
- 栄養の専門家（団体）等と連携して、健康的な食生活について、普及啓発します。

## 【身体活動・運動】

### 取組方針

- 一人ひとりの状態に合わせた適切な運動に取り組む人を増やします。→ **強化**
- 日常生活における**歩行時間**を増やします。→ **変更**
- 運動習慣のある子どもを増やします。
- 高齢者の日常生活における**歩行時間**を増やします。→ **変更**
- ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っている人を増やします。

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

#### 市民

- 意識して身体を動かします。→ **強化**
- 自分に合った楽しくできる運動を見つけます。
- 家族、友人と一緒に運動します。
- 通勤、通学や買い物など日常生活で意識的に歩きます。→ **強化**
- エスカレーター、エレベーターを使わずできるだけ階段を利用します。
- ウォーキング大会などイベントに参加します。
- 子どものころから健康的な運動習慣を身につけます。
- 地域の集まりなどに積極的に参加します。
- ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について正しい知識を身につけます。

#### 地域

- 近所の人を運動に誘って町内会ぐるみで運動します。→ **強化**
- 町内会等でウォーキングイベントを実施します。→ **強化**
- 体育振興会等の活動を活性化し、地域のスポーツの場を提供します。
- 地域の中でスポーツの指導ができる人が、学校で子どもの指導を行います。
- 子どもや親子が、身近な場所で安心して遊べる場、地域の人たちが集まれる場を提供します。

#### 企業・関係機関

- スポーツ、ウォーキングについての指導をします。
- ウォーキング大会等、健康づくりイベントに協力します。→ **強化**
- 運動に関する正しい知識について情報提供します。
- スポーツ少年団の活動を活発にします。
- 子どもが運動できる場を提供します。
- 従業員の運動習慣の確立に向けて支援します。→ **新規**

### 行政

#### 市民に向けて

- 運動の必要性、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）、閉じこもり予防に関する情報提供、普及啓発をします。
- 自主的な運動の実践を支援します。→ **強化**
- 施設利用やサービスの情報発信を充実させます。
- 誰でもウォーキングしやすい環境を整備します。
- 札幌市健康づくりセンターにおいて、生活習慣病の発症・重症化予防の対象者や障がいのある方への運動習慣づくりを支援します。
- 子どもが身体を動かす機会を提供します。

#### 地域に向けて

- 地域のスポーツ活動の機会の充実を支援します。
- ウォーキングイベントの実施を支援します。
- ウォーキング等、健康づくりのボランティアを養成し、活動を支援します。
- 地域の健康づくりグループの主体的な活動を支援します。→ **強化**
- 地域に開かれたスポーツクラブを育成・支援します。

#### 企業・関係機関に向けて

- 運動に取り組むための環境整備を支援します。→ **強化**
- 運動による健康づくりのキャンペーン活動を支援します。
- 子どもの体力向上への取組を支援します。

## 【休 養】

### 取組方針

- 睡眠による休養を十分に取れていない人を減らします。→ **強化**
- ストレスを感じている人を減らします。→ **強化**
- 悩みを相談する人がいない人を減らします。

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

#### 市 民

- 早めの就寝を心がけ、睡眠による休養を取るようになります。→ **強化**
- 連続した休暇を積極的にとるようにします。
- ストレスに関する正しい知識を身につけます。
- 自分に合った趣味やスポーツ、ボランティア活動など、ストレス解消方法をもちます。→ **強化**
- 悩み事は周囲の人に相談します。

#### 地 域

- 町内会などで休養やストレスに関する勉強会を開催します。→ **強化**
- 悩みを抱えている人に積極的に声かけをします。
- 身近で地域の人たちが集まって語り合える場を提供します。

#### 企業・関係機関

- メンタルヘルスに関する研修会・イベントに協力します。→ **強化**
- 職場内でのコミュニケーションを良好に保ちます。
- 悩みを抱えている従業員に積極的に声かけをします。
- 誰でも相談しやすいよう相談機関の充実を図ります。
- 早め帰宅や休暇を取得しやすい就業環境を整備します。→ **強化**

### 行 政

#### 市民に向けて

- 休養の必要性やストレスの対処方法について情報提供・普及啓発します。→ **強化**
- 精神疾患や悩み、対人関係でお困りの方や家族が相談できる体制を整備します。

#### 地域に向けて

- こころの健康について地域で身近に相談できる環境整備を支援します。→ **強化**
- 精神疾患や悩みについて相談を受けている関係者に対し、研修の実施や情報提供を行います。
- 悩みを抱える人を支援する人材を養成します。

#### 企業・関係機関に向けて

- 健康的な休養・ストレスの対処ができる環境整備を支援します。→ **強化**
- 精神疾患などを抱える人が適切な支援を受けられるような環境整備を支援します。

## 【飲 酒】

### 取組方針

- 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人を減らします。  
→ **変更**
- 未成年者・妊婦の飲酒をなくします。

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

市 民	地 域	企業・関係機関
<ul style="list-style-type: none"><li>●週に2日は休肝日にします。→ <b>強化</b></li><li>●適量の飲酒を心がけます。 → <b>強化</b></li><li>●未成年者はお酒を飲みません。</li><li>●妊娠中はお酒を飲みません。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●生活習慣病のリスクを高める量の飲酒の害について情報提供します。→ <b>変更</b></li><li>●飲酒の影響について未成年者に教えます。</li><li>●未成年者の飲酒を見つけたら注意します。</li><li>●未成年者、妊婦に飲酒は勧めません。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●生活習慣病のリスクを高める量の飲酒の害について情報提供します。→ <b>変更</b></li><li>●未成年者にはお酒は売りません。</li></ul>

### 行 政

市民に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>●飲酒の害に関する知識について普及啓発します。</li><li>●生活習慣病のリスクを高める量の飲酒の害について情報提供します。→ <b>変更</b></li><li>●未成年者・妊婦の飲酒による健康への影響について普及啓発します。</li></ul>
地域に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>●関係機関と連携し、飲酒の害に関する知識について普及啓発します。→ <b>強化</b></li></ul>
企業・関係機関に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>●飲酒の害に関して情報発信を支援します。→ <b>強化</b></li></ul>

## 【喫 煙】

### 取組方針

- 成人の喫煙率を減らします。
- 受動喫煙の機会を有する人を減らします。→ **強化**
- COPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っている人を増やします。
- 未成年者・妊婦の喫煙をなくします。
- 妊婦や子どもの受動喫煙をなくします。→ **強化**

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

#### 市 民

- たばこをやめます。
- 周囲の人にたばこの害が及ばないように、受動喫煙の防止に努めます。→ **強化**
- COPD（慢性閉塞性肺疾患）について正しい知識を身につけます。
- 未成年者や妊婦はたばこを吸いません。→ **強化**

#### 地 域

- 地域で集まる行事の時は受動喫煙防止に取り組みます。→ **強化**
- 子ども、妊婦の前ではたばこを吸いません。→ **強化**
- たばこの影響について未成年者に教えます。
- 未成年者の喫煙を見つけたら注意します。
- 未成年者、妊婦にはたばこを吸わせません。

#### 企業・関係機関

- 喫煙の影響について情報提供します。
- 受動喫煙防止に取り組みます。→ **強化**
- 未成年者、妊婦への喫煙の影響について普及啓発します。→ **強化**
- 妊娠中の禁煙を勧めます。
- 未成年者にたばこは売りません。

### 行 政

#### 市民に向けて

- 喫煙の影響や受動喫煙、COPD（慢性閉塞性肺疾患）に関する知識について普及啓発します。→ **強化**
- 市民が自ら受動喫煙防止に取り組みやすい環境の整備を図ります。→ **新規**
- 禁煙希望者を支援します。
- 学校などを通して、たばこの影響について普及啓発します。

#### 地域に向けて

- 関係機関と連携し、喫煙の影響や受動喫煙、COPD（慢性閉塞性肺疾患）に関する知識について普及啓発します。→ **変更**

#### 企業・関係機関に向けて

- たばこの害を防止するための環境整備を支援します。
- 受動喫煙を防止する取組を支援します。→ **強化**

## 【歯・口腔の健康】

### 取組方針

- かかりつけ歯科医を持つ人を増やします。→強化
- むし歯や歯周疾患のある人を減らします。
- むし歯のない子どもを増やします。→強化
- 高齢になっても自分の歯を有する人を増やします。
- 高齢になっても咀嚼機能が良好な人を増やします。

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

#### 市民

- 歯や口の健康に関心を持ち正しい知識を身に付け実践します。→強化
- かかりつけ歯科医を持ちます。→強化
- 定期的に歯科健診を受けます。→強化

#### 地域

- 町内会活動等で、歯と口の健康に関する勉強会を行います。
- 歯科健診を受けるよう声を掛け合います。→強化

#### 企業・関係機関

- 歯の健康に関する正しい知識を情報提供します。
- かかりつけ歯科医を推進します。→強化
- 啓発イベントの開催等に協力します。→強化

### 行政

#### 市民に向けて

- むし歯や歯周疾患予防について普及啓発します。→強化
- かかりつけ歯科医について普及啓発します。→強化
- 定期的に歯科健診を受ける必要性について普及啓発します。
- 企業・関係機関と連携し、歯科健診を受けやすい環境を整備します。

#### 地域に向けて

- 企業・関係機関と連携し、むし歯や歯周疾患予防、かかりつけ歯科医について普及啓発します。→強化

#### 企業・関係機関に向けて

- 歯科健診を受けやすい環境整備を支援します。
- かかりつけ歯科医推進の取組を支援します。→強化
- 歯科保健の取組を支援します。

## 【健康行動】

### 取組方針

- 特定健康診査、特定保健指導を受ける人を増やします。
- 生活習慣病の重症化を予防します。
- がん検診を受ける人を増やします。→ **強化**
- かかりつけ医を持つ人・小児科救急医療機関を知っている人を増やします。
- 定期予防接種を受ける子どもを増やします。→ **強化**
- インフルエンザ予防接種を受ける高齢者を増やします。→ **強化**
- HIVの早期発見に努めます。

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

#### 市民

- 定期的に特定健康診査やがん検診を受けます。→ **強化**
- 検診の結果を確認し、必要な検査や治療を受けます。
- 定期的に、乳がんの自己検診や口腔がんの自己観察をします。
- 健診結果を確認し、必要な指導を受け、健康的な生活習慣を身に付けます。
- かかりつけ医を持ちます。
- 予防接種を受けます(子どもに受けさせます) → **強化**
- HIVに関する正しい知識を身につけます。
- HIV検査を受けます。

#### 地域

- 地域で声を掛け合って、特定健康診査やがん検診、予防接種を受けます。→ **強化**
- 地域で健診、がん検診、予防接種などの研修会等を開催します。

#### 企業・関係機関

- 従業員に健診を受けるよう呼びかけます。
- がん検診の重要性について普及啓発します。
- がん検診を職場で受診できるような体制を作ります。→ **強化**
- かかりつけ医を持つことについて普及啓発します。
- 医療機関で予防接種の対象者へ普及啓発します。→ **強化**
- HIVに関する正しい知識を情報提供します。

### 行政

#### 市民に向けて

- 健診・検診や予防接種に関する制度や必要性について普及啓発します。→ **強化**
- 生活習慣病の重症化予防のための支援をします。
- 若い世代からがん検診の重要性について普及啓発します。→ **強化**
- かかりつけ医を持つことについて普及啓発します。
- 小児科の救急医療機関について周知します。
- 予防接種の周知、勧奨をおこないます。→ **強化**
- HIVに関する正しい知識とHIV検査について普及啓発します。

#### 地域に向けて

- 地域での健康づくり活動を支援します。
- 地域の団体が主催する研修会等を支援します。→ **強化**

#### 企業・関係機関に向けて

- 健診を受けやすい環境整備を支援します。
- がん検診の重要性について普及啓発します。→ **強化**
- かかりつけ医の普及啓発について支援します。
- 地域の健康づくり活動への協力を呼び掛けます。
- 予防接種の対象者への普及啓発について支援します。→ **強化**
- HIVに関する正しい知識の情報提供について支援します。



## 【親子の健康】 ①安心・安全な妊娠、出産

### 取組方針

- 未受診妊婦を減らします。→ **変更**
- 低出生体重児が生まれる要因について正しい知識を持つ人を増やします。

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

#### 市民

- 妊娠に気付いたら早期に病院を受診して妊娠届出書を提出し、定期的に妊婦健診を受けます。
- 妊娠前からのやせ、妊娠中の適正体重に気をつけます。
- 妊産婦歯科健診を受診し、歯周疾患を予防します。

#### 地域

- 妊娠中の体重管理の正しい知識について、情報提供します。
- 低出生体重児と成人後の生活習慣病発症リスクの関連について、正しい知識の普及啓発を行います。

#### 企業・関係機関

- 妊婦健診を適切な時期に受けられるよう支援します。
- 妊婦が健診を受けやすい環境をつくります。
- 妊娠中の体重管理の正しい知識について、情報提供します。
- 低出生体重児と成人後の生活習慣病発症リスクの関連について、正しい知識の普及啓発を行います。

### 行政

#### 市民に向けて

- 妊娠初期からの受診の重要性について普及啓発を行います。
- 妊娠や出産に不安や心配がある妊婦に早期支援を行います。
- 妊娠前からのやせ、妊娠中の適正体重、喫煙、歯周疾患と低出生体重児、成人後の生活習慣病発症リスクについて、正しい知識を普及啓発します。

#### 地域に向けて

- 妊娠前からのやせ、妊娠中の適正体重、喫煙、歯周疾患と低出生体重児、成人後の生活習慣病発症リスクについて、正しい知識の普及啓発を支援します。

#### 企業・関係機関に向けて

- 妊婦健診の重要性について普及啓発します。
- 妊娠前からのやせ、妊娠中の適正体重、喫煙、歯周疾患と低出生体重児、成人後の生活習慣病発症リスクについて、正しい知識の普及啓発を支援します。

## 【親子の健康】 ②子どものすこやかな成長への支援

### 取組方針

- 安心して育児ができる母親を増やします。→ **強化**
- 乳児のSIDS（乳幼児突然死症候群）による死亡を減らします。
- 不慮の事故による乳幼児の死亡を減らします。
- 児童虐待を予防します。→ **強化**

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

#### 市民

- 子育てに不安や悩みがある時は、誰かに相談します。→ **強化**
- 子育てに関する事業に積極的に参加します。
- 父親も積極的に育児に参加します。
- 産後に気分の落ち込みが続くときは早めに専門機関を受診します。→ **強化**
- SIDS（乳幼児突然死症候群）を予防します。
- 心肺蘇生法の正しい知識を身につけ、実践できるようにします。
- 家庭内での事故予防対策を実施します。
- 乳幼児揺さぶられ症候群について正しい知識を身につけます。

#### 地域

- 地域で孤立しがちな親子に声かけや見守りを行います。→ **強化**
- 子育て経験を伝えていきます。→ **変更**
- 子育て親子が交流できる場を提供します。
- 子どもの周りでたばこを吸いません。
- 心肺蘇生法の講習会を開催します。
- 事故防止の工夫について、地域の子育て経験者が伝えていきます。
- 児童虐待を発見した場合は、児童相談所などの関係機関に通報します。

#### 企業・関係機関

- 子育てしやすい環境をつくります。→ **強化**
- 産後うつ病に関する知識の普及啓発を行います。
- 産後うつ病の親を専門機関につなげます。
- 母親や父親の育児休暇取得を推進します。
- SIDS（乳幼児突然死症候群）、心肺蘇生法、家庭での事故防止について正しい知識の普及啓発を行います。
- 乳幼児揺さぶられ症候群についての知識の普及啓発を行います。
- 虐待を発見した場合は、児童相談所に通報します。
- 虐待のおそれがあると判断した際には、保健センターに情報提供します。
- 関係機関と連携して児童虐待の防止や早期発見に努めます。→ **強化**

### 行政

#### 市民に向けて

- 父親も含めた家族での育児の重要性について普及啓発します。
- 産後うつ病等を抱える人への支援として、医療機関等との連携を強化します。
- 障がいや疾病がある子どもや、親への支援をします。
- SIDS（乳幼児突然死症候群）、心肺蘇生法、家庭における事故予防に関する知識の普及啓発を行います。
- 乳幼児揺さぶられ症候群についての正しい知識の普及啓発を行います。
- 一人ひとりの親に寄り添い、安心して育児ができるよう支援します。→ **変更**

#### 地域に向けて

- 育児に関する不安について気軽に相談できる体制整備を支援します。→ **強化**
- 関係機関と連携して児童虐待の防止体制を整備します。→ **強化**

#### 企業・関係機関に向けて

- 関係機関と連携し、子育てしやすい環境整備を支援します。→ **変更**
- 産後うつ病に関する知識の普及啓発を支援します。
- SIDS（乳幼児突然死症候群）、心肺蘇生法、家庭での事故防止についての正しい知識の普及啓発を支援します。
- 児童虐待の防止、虐待事例への支援をします。

## 【親子の健康】 ③思春期の心と体の健康づくり

### 取組方針

- 10歳代の望まない妊娠を防ぐために、避妊法に関する正しい知識を持つ人を増やします。
- 性感染症に関する正しい知識を持つ人を増やします。
- 薬物に関する正しい知識を持つ人を増やします。

### 実現に向けて私たちが取り組むこと

#### 市民

- 避妊法について正しい知識を身につけ実践します。
- 性感染症に関する正しい知識と予防方法を身につけます。
- 薬物に関する正しい知識を身につけます。
- 自分とパートナーの心と体を大切にします。

#### 地域

- 薬物防止教室を実施します。
- 命の大切さについて子どもたちに伝えます。

#### 企業・関係機関

- 避妊法について正しい知識の普及啓発を行います。
- 性感染症について正しい知識の普及啓発を行います。
- 薬物について正しい知識の普及啓発を行います。
- 命の大切さについて子どもたちに伝えます。

### 行政

#### 市民に向けて

- 避妊法、性感染症、薬物に関する正しい知識について普及啓発します。
- 命の大切さについて伝えます。

#### 地域に向けて

- 関係機関と連携し、薬物に関する正しい知識について普及啓発します。
- 命の大切さについて子どもたちに伝える支援をします。

#### 企業・関係機関に向けて

- 避妊法、性感染症、薬物に関する正しい知識についての普及啓発を支援します。
- 命の大切さについて子どもたちに伝える支援をします。

# 資料編 3 計画前半の札幌市の主な事業等

※事業実績の年次の表記は「2013年度（平成25年度）」を「2013（H25）」とします。

## (1) 栄養・食生活

### ●適切な量と質の食事をとる人を増やします。

主な取組						
<b>食育推進会議</b>						
「札幌市食育推進会議」では、食育推進計画の策定、その進捗に関すること等を審議しています。委員は、学識経験者、食に関係する団体の代表者、市民委員で構成されています。						
	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
	会議開催数	1回	1回	1回	1回	3回
<b>食生活指針の啓発事業</b>						
「健康」分野に加えて、「地産地消」や「環境に配慮する食生活」などの「食育」の観点を取り入れた「札幌市食生活指針」の普及・啓発に取り組んでいます。						
	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
	啓発回数	575回	516回	499回	755回	1,029回
	啓発人数	7,619人	7,736人	7,028人	8,736人	14,370人
<b>野菜摂取強化事業</b>						
市民に野菜摂取の喚起を図ることを目的として、8月を野菜摂取強化月間、「毎月、『1日』は、野菜の日」と定め、市内の給食施設やボランティア団体、野菜販売店・大型スーパー等と連携し、普及啓発等に取り組んでいます。						
	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
	啓発回数	2,218回	2,835回	2,883回	2,480回	2,505回
	啓発人数	45,934人	51,899人	58,322人	48,730人	52,660人
<b>栄養相談と栄養講習会</b>						
管理栄養士が個人に合わせた適正な食生活を支援するための個別の栄養相談と、離乳食などの子どもの食生活に関する講習会や糖尿病などの生活習慣病を予防するために食生活について学ぶ栄養講習会を実施しています。						
	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
個別栄養相談人数		37,983	38,265	38,340	36,992	32,434人
栄養講習会	実施回数	1,367	1,358	1,421	1,387	1,492回
	参加者数	44,572	44,023	46,881	46,059	56,586人
<b>健康教育</b>						
生活習慣病の予防、健康増進等に関して管理栄養士が健康教育を実施しています。						
	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
健康教育 (栄養・食生活)	実施回数	316回	310回	310回	286回	302回
	参加者数	7,487人	7,699人	7,613人	6,219人	6,265人
<b>特定給食施設指導</b>						
市内の特定（多数）給食施設*である病院、事業所、幼稚園等の約600施設の施設管理者等に対して、保健所の栄養指導員が栄養管理指導を行うとともに、健康づくりに係る啓発事業を行っています。*特定（多数）給食施設とは、特定かつ多数の人に対して1回50食以上、または1日100食以上継続して給食を提供している施設						
	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
	指導回数	628回	637回	637回	644回	623回
	指導施設数	648カ所	796カ所	751カ所	766カ所	762カ所
<b>外食・加工食品の栄養成分表示普及事業</b>						
市民自らが健康づくりを行うために外食や加工食品の栄養成分表示により、適正な情報提供を行うことが必要となっています。表示を普及させるために関係業者に対し、表示の普及啓発と方法等の指導を行っています。また、市民に対しては、表示された栄養成分の理解促進に向けた啓発事業を行っています。						
	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
	栄養成分表示の店登録数	1,592カ所	1,632カ所	1,628カ所	1,671カ所	1,732カ所
	加工食品等指導・相談件数	71件	80件	72件	208件	246件
	啓発人数	3,468人	4,986人	5,954人	5,276人	6,506人
<b>札幌市栄養成分表示の店(ここから健康づくり応援団)</b>						
エネルギーなどの栄養成分表示を継続して3メニュー以上実施している外食料理店等を栄養成分表示の店として登録し、ステッカーを配付するとともに、ホームページ「食育情報」に店舗名等を掲載しています。						
	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
	登録店舗数	1,592カ所	1,632カ所	1,628カ所	1,671カ所	1,732カ所

主な取組						
<b>ヘルシーメニュー事業</b>						
市民が栄養に配慮した食事を選択できるよう、「栄養成分表示の店」推進事業の一環として、ヘルシーメニューを提供する外食料理店を増やす等、食環境整備に取り組んでいます。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
ヘルシーメニュー提供店舗数	10カ所	26カ所	21カ所	39カ所	39カ所	
<b>エコクッキングの推進</b>						
健康と環境に配慮した食生活を進めるために、「エコクッキング」の普及啓発を行っています。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
エコクッキング啓発回数	480回	661回	596回	528回	646回	
参加者数	27,384人	24,358人	23,092人	12,952人	17,933人	
<b>妊産婦料理教室</b>						
妊産婦とその配偶者を対象に、妊娠中や産後の食生活の重要性を普及啓発するとともに、生活習慣病を予防する食生活について学び料理教室を実施しています。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
開催回数	58回	52回	50回	45回	30回	
参加者数	664人	522人	470人	350人	327人	
<b>男性の料理教室</b>						
健康に関する食生活を学びながら調理の実践を促し、地域の自主活動グループ等へ参画していくこと等を目的として、「男性の料理教室」の開催や、男性料理グループの活動支援等を行っています。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
開催・支援回数	102回	99回	114回	80回	63回	
参加者数	1,218人	1,051人	1,239人	748人	686人	
<b>健康料理フェスティバル</b>						
健康的でバランスの良い食生活を進めるために、札幌市調理師団体連合会との共催により、市内のホテルを会場として、年1回、健康料理フェスティバルを開催しています。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
実施回数	1回	1回	1回	1回	1回	
<b>食生活改善推進員養成事業</b>						
食生活の地域改善活動推進の担い手である食のボランティアの食生活改善推進員を養成するため、所定のカリキュラムに基づく養成講座を実施しています。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
推進員数	1,578人	1,548人	1,550人	1,508人	1,452人	
修了者数	168人	139人	169人	151人	146人	
<b>食生活改善地区組織活動の支援</b>						
食生活改善推進員が、健康づくりに役立つ調理実習等を含む講習会や食生活改善展などの活動をするための支援をしています。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
食生活改善展	実施回数	20回	20回	23回	19回	16回
	参加者数	5,851人	5,406人	5,753人	5,342人	4,396人
栄養講習会	実施回数	585回	523回	612回	939回	886回
	参加者数	23,399人	25,938人	26,965人	31,705人	24,485人
<b>高齢者の食生活指針の啓発事業</b>						
管理栄養士が介護予防の観点から、65歳以上の方を対象とした「高齢者のための食生活指針」を作成し、食育の啓発に取り組んでいます。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
啓発回数	91回	76回	68回	79回	114回	

●適正体重を維持している人を増やします。

主な取組	
食育推進会議	(再掲)
食生活指針の啓発事業	(再掲)
栄養相談と栄養講習会	(再掲)
健康教育	(再掲)
特定給食施設指導	(再掲)
外食・加工食品の栄養成分表示普及事業	(再掲)
札幌市栄養成分表示の店(ここから健康づくり応援団)	(再掲)
ヘルシーメニュー事業	(再掲)
妊産婦料理教室	(再掲)

主な取組	
男性の料理教室	(再掲)
健康料理フェスティバル	(再掲)
食生活改善推進員養成事業	(再掲)
食生活改善地区組織活動の支援	(再掲)
高齢者の食生活指針の啓発事業	(再掲)

●健康な生活習慣（栄養・食生活）を身に付けている青少年を増やします。

主な取組																			
親子料理教室	幼稚園児・小・中学生とその保護者を対象として、親子が健康づくりのための食生活を学ぶ料理教室を、学校等で行っています。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>36回</td> <td>39回</td> <td>37回</td> <td>28回</td> <td>19回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>966人</td> <td>937人</td> <td>1,140人</td> <td>881人</td> <td>542人</td> </tr> </tbody> </table>	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	開催回数	36回	39回	37回	28回	19回	参加者数	966人	937人	1,140人	881人	542人
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)														
開催回数	36回	39回	37回	28回	19回														
参加者数	966人	937人	1,140人	881人	542人														
本気(まじ)めしプロジェクト	札幌市民健康・栄養調査結果などから、20代、30代の朝食摂取率が低い、野菜の摂取量が少ない等、食生活の課題があることからその改善に向けて、各区保健センターでは若い世代を対象とした体験型の食育支援事業を行っています。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>10回</td> <td>13回</td> <td>17回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>309人</td> <td>336人</td> <td>620人</td> </tr> </tbody> </table>	実績	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	実施回数	10回	13回	17回	参加者数	309人	336人	620人						
実績	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)																
実施回数	10回	13回	17回																
参加者数	309人	336人	620人																
食育推進会議	(再掲)																		
食生活指針の啓発事業	(再掲)																		
野菜摂取強化事業	(再掲)																		
栄養相談と栄養講習会	(再掲)																		
特定給食施設指導	(再掲)																		
外食・加工食品の栄養成分表示普及事業	(再掲)																		
札幌市栄養成分表示の店(ここから健康づくり応援団)	(再掲)																		
ヘルシーメニュー事業	(再掲)																		
エコクッキングの推進	(再掲)																		
妊産婦料理教室	(再掲)																		
男性の料理教室	(再掲)																		
食生活改善推進員養成事業	(再掲)																		
食生活改善地区組織活動の支援	(再掲)																		

●適正体重の子どもを増やします。

主な取組	
食育推進会議	(再掲)
食生活指針の啓発事業	(再掲)
栄養相談と栄養講習会	(再掲)
特定給食施設指導	(再掲)
外食・加工食品の栄養成分表示普及事業	(再掲)
札幌市栄養成分表示の店(ここから健康づくり応援団)	(再掲)
ヘルシーメニュー事業	(再掲)
親子料理教室	(再掲)
食生活改善推進員養成事業	(再掲)
食生活改善地区組織活動の支援	(再掲)

●低栄養傾向にある高齢者を減らします。

主な取組																			
高齢者口腔機能向上・栄養改善教室(二次予防事業)	管理栄養士や歯科衛生士、看護師などの専門職員が、元気であるために必要な栄養・食事、食べることに欠かせない噛む力や飲み込む力を保つ方法について楽しく学ぶ教室を開催しています。(2016年度(平成28年度)で事業終了)																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>120回</td> <td>240回</td> <td>240回</td> <td>160回</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>695人</td> <td>1,425人</td> <td>1,251人</td> <td>767人</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	開催回数	120回	240回	240回	160回	-	参加者数	695人	1,425人	1,251人	767人	-
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)														
開催回数	120回	240回	240回	160回	-														
参加者数	695人	1,425人	1,251人	767人	-														

主な取組	
食育推進会議	(再掲)
食生活指針の啓発事業	(再掲)
栄養相談と栄養講習会	(再掲)
健康教育	(再掲)
特定給食施設指導	(再掲)
外食・加工食品の栄養成分表示普及事業	(再掲)
札幌市栄養成分表示の店(ここから健康づくり応援団)	(再掲)
ヘルシーメニュー事業	(再掲)
男性の料理教室	(再掲)
健康料理フェスティバル	(再掲)
食生活改善推進員養成事業	(再掲)
食生活改善地区組織活動の支援	(再掲)
高齢者の食生活指針の啓発事業	(再掲)

## (2) 身体活動・運動

### ●一人ひとりの状態に合わせた適切な運動に取り組む人を増やします。

主な取組																															
<b>札幌市健康づくりセンター</b> 医師、保健師、管理栄養士、健康運動指導士などの専門スタッフが、健康診断や体力測定などの結果を基に、生活・運動・栄養指導などを通じて、個人に合った健康づくりの実践を支援しています。また、重症化予防の取組として医療機関等より紹介された方に対する運動支援を行う利用促進事業も行っています。																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央健康づくりセンター利用者数</td> <td>86,510人</td> <td>110,133人</td> <td>85,184人</td> <td>113,211人</td> <td>124,433人</td> </tr> <tr> <td>東健康づくりセンター利用者数</td> <td>37,968人</td> <td>45,513人</td> <td>48,160人</td> <td>48,595人</td> <td>56,128人</td> </tr> <tr> <td>西健康づくりセンター利用者数</td> <td>120,704人</td> <td>150,875人</td> <td>148,252人</td> <td>154,716人</td> <td>157,234人</td> </tr> <tr> <td>利用促進事業(紹介件数)</td> <td>-</td> <td>24件</td> <td>60件</td> <td>57件</td> <td>41件</td> </tr> </tbody> </table>		実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	中央健康づくりセンター利用者数	86,510人	110,133人	85,184人	113,211人	124,433人	東健康づくりセンター利用者数	37,968人	45,513人	48,160人	48,595人	56,128人	西健康づくりセンター利用者数	120,704人	150,875人	148,252人	154,716人	157,234人	利用促進事業(紹介件数)	-	24件	60件	57件	41件
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)																										
中央健康づくりセンター利用者数	86,510人	110,133人	85,184人	113,211人	124,433人																										
東健康づくりセンター利用者数	37,968人	45,513人	48,160人	48,595人	56,128人																										
西健康づくりセンター利用者数	120,704人	150,875人	148,252人	154,716人	157,234人																										
利用促進事業(紹介件数)	-	24件	60件	57件	41件																										
<b>健康づくりサポーター派遣事業</b> 市民の自主的な健康づくりを推進するため、健康づくりを目的とした地域の自主活動グループ等に健康づくりについて助言、指導を行うサポーターを派遣し、地域の健康づくりグループ等の主体的な活動を支援しています。																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サポーター登録数</td> <td>56人</td> <td>54人</td> <td>60人</td> <td>67人</td> <td>77人</td> </tr> <tr> <td>サポーター派遣回数</td> <td>64回</td> <td>69回</td> <td>100回</td> <td>103回</td> <td>106回</td> </tr> </tbody> </table>		実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	サポーター登録数	56人	54人	60人	67人	77人	サポーター派遣回数	64回	69回	100回	103回	106回												
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)																										
サポーター登録数	56人	54人	60人	67人	77人																										
サポーター派遣回数	64回	69回	100回	103回	106回																										
<b>若い世代の健康寿命の延伸に関する企画事業</b> 「健康に関心が低いと考えられる若い世代」を重視する対象者と定め、若い世代の健康格差の縮小に向けて取り組み、効果的な啓発方法や仕組みづくりについて、調査し、事業を企画しています。																															
<b>健康教育</b> 各区保健センターでは、生活習慣病の予防、健康増進等に関して医師・歯科医師・薬剤師・保健師・栄養士等が健康教育を実施しています。																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">健康教育(運動)</td> <td>実施回数</td> <td>77回</td> <td>73回</td> <td>154回</td> <td>155回</td> <td>160回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>2,779人</td> <td>4,195人</td> <td>7,451人</td> <td>6,657人</td> <td>7,022人</td> </tr> </tbody> </table>		実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	健康教育(運動)	実施回数	77回	73回	154回	155回	160回	参加者数	2,779人	4,195人	7,451人	6,657人	7,022人										
実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)																									
健康教育(運動)	実施回数	77回	73回	154回	155回	160回																									
	参加者数	2,779人	4,195人	7,451人	6,657人	7,022人																									
<b>介護予防教室</b> 高齢者の閉じこもりを予防するため、介護予防センターが軽い体操や講話、交流会などの教室を開催しています。																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>2,970回</td> <td>3,127回</td> <td>3,050回</td> <td>2,919回</td> <td>3,724回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>51,700人</td> <td>58,612人</td> <td>60,033人</td> <td>58,119人</td> <td>72,338人</td> </tr> </tbody> </table>		実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	実施回数	2,970回	3,127回	3,050回	2,919回	3,724回	参加者数	51,700人	58,612人	60,033人	58,119人	72,338人												
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)																										
実施回数	2,970回	3,127回	3,050回	2,919回	3,724回																										
参加者数	51,700人	58,612人	60,033人	58,119人	72,338人																										
<b>公園緑地や自然歩道、市民の森の利活用</b> 身近な公園緑地における余暇活動や自然歩道、市民の森での散策ができる環境づくりを進めています。																															
<b>公式ホームページの充実</b> スポーツをしている人をはじめ、これからしてみたいと思っている人やスポーツに興味のなかった人にとっても、必要な情報を手に入れることができるように、利用者視点で内容の見直しを図っています。																															
<b>「ウォークさっ歩ろ」によるウォーキング情報の集約、発信</b> ウォーキングを通じて、市民がいつまでも元気であり続け、札幌が「歩きやすい街」「歩いて楽しい街」「歩きたくなる街」として、国内外に広く知られるようになることを目標として、公式ホームページ内で、各区のウォーキングマップや関連イベント等の情報を掲載しています。																															

## 主な取組

### スポーツ推進委員の活動促進

スポーツ大会やイベントの実施にあたり、スポーツ推進委員を積極的に活用するとともに、研修の実施や研究協議会への参加等により企画・運営のスキルアップを図り、地域スポーツの活動を促進しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
委嘱人数 (3月31日現在)	260人	260人	256人	257人	253人
研修実施回数	3回	3回	3回	3回	3回

### 学校体育施設開放事業

学校教育に支障のない範囲で小中学校の体育施設（体育館、格技室、グラウンド、プール）を市民の皆様へ開放し、市民が自主的なスポーツ活動ができる環境をつくります。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
体育館開放校数	283校	283校	282校	282校	281校
グラウンド開放校数	53校	38校	38校	38校	41校
利用者数 (延べ数)	1,358,183人	1,321,299人	1,353,712人	1,360,470人	1,383,436人

### オリンピックズキャラバン事業

オリンピック選手等を活用した体験会等を実施し、市民がスポーツをするきっかけづくりと町内会等の地域諸団体の活性化につなげます。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	816人	884人	1,470人	1,730人	2,336人

### 地域スポーツ指導者活用事業

地域のスポーツ指導者（ボランティア）を市立中学校のスキー学習等に派遣し、学校と地域が一体となって子どもの学びを支援する仕組みづくりを推進します。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
人材リスト登録者数	7人	18人	64人	64人	72人

### 歩くスキー出前授業

歩くスキー授業を実施する学校を対象に、クロスカントリースキーの指導者を派遣し、子どもたちにウィンタースポーツの楽しさや喜びを伝えることにより、ウィンタースポーツに親しむ習慣を育てています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施校数	5校	10校	12校	14校	18校
参加者数	459人	782人	934人	1,019人	1,463人

### スポーツ少年団活動支援

青少年スポーツの技術力向上及び底辺拡大を図るとともに、スポーツ活動を通じて青少年の健全育成を目的に活動している札幌市スポーツ少年団を支援するため、団体運営、各種事業の実施にあたり補助金を交付します。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
補助金交付団体数 (4月1日現在)	360団体	304団体	293団体	284団体	295団体
補助金交付団体所属人数 (4月1日現在)	7,531人	5,305人	5,297人	5,155人	5,136人

### ひがしく健康・スポーツまつり

東区民の健康に対する意識を高め、食習慣・運動習慣形成へのきっかけづくりと、気軽な参加による東区民の一体感を生み出すため、区内の各団体・教育機関が企画を持ち寄り、札幌市スポーツ交流施設「つどーむ」にて、ウォーキングや健康測定など多彩なプログラムによる健康と運動をテーマにしたイベントを実施しています。

実績	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
プログラム数	28	36	40
参加者数	約 3,500人	約 3,600人	約 3,800人

### 運動部活動アスリート派遣事業

中学校及び特別支援学校の運動部活動にアスリートを派遣することで、顧問教員が指導のノウハウを学ぶ機会とし、顧問教員の指導力の向上を図ります。また、部員生徒がアスリートと触れ合うことや直接指導を受けることで、スポーツに対する関心・意欲の向上を図り、部活動の充実を図ります。

実績	2016 (H28)	2017 (H29)
派遣校数	10校 (10部活動)	13校 (16部活動)

### さっぽろっ子ウィンタースポーツ料金助成

ウィンタースポーツに親しむ機会を創出するため、札幌市内の小学生を対象にしてスキーリフト料金及びスケート貸靴料金を助成します。

実績	2016 (H28)	2017 (H29)
利用者数	2,037人	3,844人

### ウィンタースポーツ塾事業

ウィンタースポーツの裾野拡大と競技力の向上を図るため、札幌市内の子どもを対象に、ウィンタースポーツを幅広く体験する機会を提供する「エントリーコース」と、高いレベルの技術指導を受ける機会を提供する「エキスパートコース」を実施しています。

実績	2017 (H29)
参加者数	287人



主な取組					
<b>白石保健センター主催「ウォーキング会」</b>					
区民一人ひとりが自主的に健康づくりに取り組むという意識をさらに高め、かつ継続的な運動習慣の定着を図ることを目的に、手軽な健康づくり運動として始められるウォーキング会をウォーキング自主活動グループ「白石とことこ会」と共催し、区民を対象として実施しています。(ウォーキング6回、ノルディックウォーキング1回、水中ウォーキング1回の全8回)					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	291人	318人	396人	397人	370人
<b>地域の健康づくり推進事業(清田区)</b>					
区民の健康増進を図り、「歩きやすい街」、「歩いて楽しい街」、「歩きたくなる街」を目指して、「区民交流ウォーキング大会(清田区歩こう会)」を実施し、区内のウォーキング人口を増やし、ウォーキングによる健康づくりを推進します。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	204人	40人	167人	201人	210人
<b>南区ウォーキング大会</b>					
区民の運動習慣確立を目指し、ウォーキングボランティア団体(みなみくみ歩好会)と協働で「南区ウォーキングマップ」を活用したウォーキング大会を年3回実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	260人	195人	108人	104人	77人
<b>西区ウォーキング</b>					
ウォーキングを通じた区民の健康づくり推進を目的に、西区健康づくりネットワーク会(健康づくりに取り組む自主活動グループを中心に構成する団体)と区が協力して、年1回実施しています。大会では、ノルディックウォーキングのミニ講座も行っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	97人	62人	83人	雨天中止	70人
<b>ウォーキング実践指導ボランティア研修</b>					
健康づくりに取り組む市民を対象に、交流会及びウォーキング指導者としての知識や技術を学習する「ウォーキング実践指導ボランティア研修」を実施し活動を支援しています。(2016年度(平成28年度)で事業終了)					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	65人	49人	40人	34人	-
<b>市民交流ウォーキング大会</b>					
2008年度(平成20年度)からウォーキング実践指導ボランティア研修受講者が中心となり全区のボランティアが協力して「市民交流ウォーキング大会」を年1回、開催しています。(2017年度(平成29年度)で事業終了)					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	241人	280人	330人	308人	325人
<b>ウォーキング推進キャンペーン</b>					
運動習慣の定着を目指し、ウォーキングマップの作成、普及啓発等を通じ幅広い年齢層が気軽に取り組めるウォーキングを推進しています。					
<b>転倒予防教室</b>					
高齢者の転倒を予防するため、介護予防センターで転倒を予防するための体操などの介護予防教室を開催しています。(2017年度(平成29年度)より介護予防教室として統合)					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施回数	926回	908回	828回	796回	-
参加者数	17,778人	18,136人	17,650人	16,939人	-
<b>すこやか倶楽部</b>					
高齢者を対象に、転倒予防や体力増進のための体操、各種レクリエーション、交流会などを地域やボランティアの協力のもと実施しています。(2017年度(平成29年度)より介護予防教室として統合)					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	35,792人	40,822人	42,594人	42,700人	-

●日常生活における歩行時間を増やします。

主な取組	
健康づくりサポーター派遣事業	(再掲)
健康教育	(再掲)
「ウォークさっ歩ろ」によるウォーキング情報の集約、発信	(再掲)
白石保健センター主催「ウォーキング会」	(再掲)
南区ウォーキング大会	(再掲)
西区ウォーキング	(再掲)
ウォーキング実践指導ボランティア研修	(再掲)
市民交流ウォーキング大会	(再掲)
ウォーキング推進キャンペーン	(再掲)

主な取組	
転倒予防教室	(再掲)
すこやか倶楽部	(再掲)

●運動習慣のある子どもを増やします。

主な取組	
地域スポーツ指導者活用事業	(再掲)
歩くスキー出前授業	(再掲)
スポーツ少年団活動支援	(再掲)
ひがしく健康・スポーツまつり	(再掲)
運動部活動アスリート派遣事業	(再掲)
さっぽろっ子ウィンタースポーツ料金助成	(再掲)
ウィンタースポーツ塾事業	(再掲)
ウォーキング推進キャンペーン	(再掲)

●高齢者の日常生活における歩行時間を増やします。

主な取組	
健康づくりサポーター派遣事業	(再掲)
健康教育	(再掲)
介護予防教室	(再掲)
白石保健センター主催「ウォーキング会」	(再掲)
南区ウォーキング大会	(再掲)
西区ウォーキング	(再掲)
ウォーキング実践指導ボランティア研修	(再掲)
市民交流ウォーキング大会	(再掲)
ウォーキング推進キャンペーン	(再掲)
転倒予防教室	(再掲)
すこやか倶楽部	(再掲)

●ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っている人を増やします。

主な取組																					
健康教育																					
各区保健センターでは、生活習慣病の予防、健康増進等に関して医師・歯科医師・薬剤師・保健師・栄養士等が健康教育を実施しています。																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">健康教育（ロコモティブシンドローム）</td> <td>実施回数</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>14回</td> <td>4回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>51人</td> <td>175人</td> <td>364人</td> <td>94人</td> <td>150人</td> </tr> </tbody> </table>		実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	健康教育（ロコモティブシンドローム）	実施回数	3回	4回	14回	4回	2回	参加者数	51人	175人	364人	94人	150人
実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)															
健康教育（ロコモティブシンドローム）	実施回数	3回	4回	14回	4回	2回															
	参加者数	51人	175人	364人	94人	150人															
札幌市健康づくりセンター	(再掲)																				
介護予防教室	(再掲)																				

### (3) 休養

●睡眠による休養を十分取れていない人を減らします。

主な取組																					
健康教育																					
各区保健センターでは、こころの健康、健康増進等に関して医師・保健師等が健康教育を実施しています。																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">健康教育（休養）</td> <td>実施回数</td> <td>0回</td> <td>0回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>13人</td> <td>44人</td> <td>46人</td> </tr> </tbody> </table>		実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	健康教育（休養）	実施回数	0回	0回	1回	2回	2回	参加者数	0人	0人	13人	44人	46人
実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)															
健康教育（休養）	実施回数	0回	0回	1回	2回	2回															
	参加者数	0人	0人	13人	44人	46人															

主な取組

精神保健福祉相談

精神保健福祉に関する相談のうち、複雑・困難なものを行っており、心の健康相談から精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、思春期、ひきこもり、アルコール及び薬物関連問題などの特定相談を受けています。

実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
相談件数 (延べ数)	思春期	5件	10件	30件	29件	44件
	ひきこもり	41件	27件	30件	17件	35件
	薬物問題	3件	4件	2件	2件	13件
	アルコール問題	7件	8件	7件	6件	10件

心の健康相談(電話相談)

精神疾患や心の悩み、対人関係などでお困りの方や家族に対して、療養方法や日常生活の相談を行っています。

実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
相談件数	札幌こころのセンター	3,789件	3,821件	3,818件	3,822件	3,896件
	各区保健福祉部	9,916件	10,153件	11,766件	12,735件	12,300件

精神科救急情報センター

夜間や休日に緊急の精神科医療を必要とする方からの電話相談を受け付け、病院との連携などのトリアージを行っています。

実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
相談件数		4,073件	4,151件	4,306件	4,168件	4,320件

● ストレスを感じている人を減らします。

主な取組

健康教育	(再掲)
精神保健福祉相談	(再掲)
心の健康相談(電話相談)	(再掲)
精神科救急情報センター	(再掲)

● 悩みを相談する人がいない人を減らします。

主な取組

ゲートキーパー研修

自殺問題に関心のある市民や、自殺のハイリスク層と関わる支援者等を対象に、悩んでいる人に気づき、声をかけ、傾聴し、必要な支援につなげて見守るというゲートキーパーの役割を担える人材を養成します。

実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
専門職対象	実施回数	5回	5回	5回	5回	3回
	参加者数	902人	939人	824人	859人	429人
一般市民対象	実施回数	1回	1回	1回	3回	6回
	参加者数	101人	187人	176人	63人	158人

かかりつけ医によるうつ病対応力向上研修

精神科医以外の医師・産業医を中心とした、かかりつけ医が地域でうつ病の早期発見・早期対応を行うために、うつ病診療の知識・技術及び精神科等の専門医との連携方法を習得する研修会を北海道、北海道医師会と共同主催にて実施しています。

実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施回数		1回	1回	1回	1回	1回
参加者数		129人	159人	142人	144人	155人

精神保健福祉相談	(再掲)
心の健康相談(電話相談)	(再掲)
精神科救急情報センター	(再掲)

## (4) 飲酒

### ●生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人を減らします。

主な取組						
<b>健康教育</b>						
各区保健センターでは、生活習慣病の予防、健康増進等に関して医師・歯科医師、薬剤師、保健師、栄養士等が健康教育を実施しています。						
実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
健康教育 (飲酒)	実施回数	0回	0回	1回	0回	5回
	参加者数	0人	0人	0人	0人	147人
<b>地域の自助グループや団体等との連携事業</b>						
総合的な自殺予防活動の支援を強化検討するために断酒会等と連携し、「自殺予防」や「アルコール依存症に関する正しい知識の普及等」をテーマとした講演会を開催しています。						
実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
講演会開催回数		1回	1回	1回	1回	1回
参加者数		103人	108人	110人	112人	100人

### ●未成年・妊婦の飲酒をなくします。

主な取組						
<b>思春期ヘルスケア事業</b>						
市内の小・中・高校の児童・生徒を対象とし、各区保健センターの専門職が、授業の一環としてアルコールの害に関する健康教育を行っています。						
実績(飲酒)		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施回数		21回	22回	24回	21回	32回
参加者数		1,852人	1,724人	1,938人	1,751人	2,880人
<b>妊婦支援相談事業</b>						
妊娠届出書の提出時に面接相談を実施し、支援が必要な妊婦に対して、家庭訪問等による継続支援を実施しています。						
実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
面接相談数		15,219件	14,949件	14,810件	14,265件	14,012件
継続支援実施数		2,792件	2,760件	2,420件	2,225件	954件
<b>健康教育</b> (再掲)						

## (5) 喫煙

### ●成人の喫煙率を減らします。

主な取組						
<b>さっぽろ MU 煙デー推進事業</b>						
2010年(平成22年)10月から毎月3日を「さっぽろ MU 煙デー」とし、喫煙者、非喫煙者を含む全ての市民を対象とする受動喫煙防止キャンペーンを実施しています。						
実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
イベント実施回数		8回	9回	6回	8回	1回
参加者数		21,134人	10,152人	27,846人	21,920人	3,312人
<b>健康教育</b>						
各区保健センターでは、生活習慣病の予防、健康増進等に関して医師・歯科医師、薬剤師、保健師、栄養士等が健康教育を実施しています。						
実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
健康教育 (たばこ)	実施回数	2回	2回	0回	0回	1回
	参加者数	143人	57人	0人	0人	15人
<b>禁煙週間</b>						
世界禁煙デーに始まる禁煙週間に、各種イベント、パネル展等を実施し、禁煙に係る知識の普及啓発事業を実施しています。						

主な取組

子育て世帯の禁煙外来受診促進事業

15歳以下の子か妊婦と同居しており、健康保険適用の禁煙外来治療を12週以内に5回受診する、などの要件を満たす希望者に対し、禁煙外来治療に係る自己負担額の合計金額のうち、1万円を上限として助成を行います。終了後のアンケート結果は、禁煙外来受診の普及啓発に活用しています。

実績	2017 (H29)
助成金交付人数	30人

● 受動喫煙の機会を有する人を減らします。

主な取組

受動喫煙防止対策ガイドラインの普及

市民、事業者、行政が一体となって受動喫煙防止対策に取り組むため、「札幌市受動喫煙防止対策ガイドライン（第二版）」を作成し、普及啓発を行っています。

禁煙・完全分煙施設（ここから健康づくり応援団）

札幌市受動喫煙防止対策ガイドラインに沿って、禁煙・完全分煙している企業・商店にステッカーを配付するとともに、札幌市公式ホームページ上に店舗名等を掲載しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
禁煙・完全分煙施設登録数	630カ所	666カ所	817カ所	848カ所	827カ所

がん患者の就労継続に向けた環境整備事業（がん対策認定企業制度）

札幌市が推奨するがん対策に取り組む企業を、その取り組み内容に応じたクラスに分けて認定します。

実績	2017 (H29)
認定企業数	2社

さっぽろ MU 煙デー推進事業

(再掲)

健康教育

(再掲)

禁煙週間

(再掲)

子育て世帯の禁煙外来受診促進事業

(再掲)

● COPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っている人を増やします。

主な取組

健康教育

各保健センターでは、生活習慣病の予防、健康増進等に関して医師・歯科医師・薬剤師・保健師・栄養士等が健康教育を実施しています。

実績 (COPD)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施回数	1回	0回	0回	0回
参加者数	25人	0人	0人	0人

健康教育

(再掲)

禁煙週間

(再掲)

● 未成年・妊婦の喫煙をなくします。

主な取組

思春期ヘルスケア事業（再掲）

市内の小・中・高校の児童・生徒を対象とし、各区保健センターの専門職が、授業の一環としてたばこの害に関する健康教育を行っています。

実績 (たばこ)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施回数	21回	22回	24回	23回	32回
参加者数	1,774人	1,653人	1,865人	1,852人	2,880人

普及啓発（妊娠期）

母子手帳交付時や母親教室・両親教室等にてリーフレットを配布し、たばこの害について啓発しています。

さっぽろ MU 煙デー推進事業

(再掲)

健康教育

(再掲)

禁煙週間

(再掲)

● 妊婦や子どもの受動喫煙をなくします。

主な取組

思春期ヘルスケア事業

(再掲)

普及啓発（妊娠期）

(再掲)

主な取組	
受動喫煙防止対策ガイドラインの普及	(再掲)
禁煙・完全分煙施設(ここから健康づくり応援団)	(再掲)
さっぽろ MU 煙デー推進事業	(再掲)
健康教育	(再掲)
禁煙週間	(再掲)
子育て世帯の禁煙外来受診促進事業	(再掲)

## (6) 歯・口腔の健康

### ●かかりつけ歯科医を持つ人を増やします。

主な取組	
<b>歯周疾患検診</b>	
40歳、50歳、60歳、70歳の人を対象に、札幌市指定の歯科医療機関で問診・口腔内診査による歯周疾患検診を行っています。	
実績	2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)
受診者数	949人 634人 2,043人 3,919人 3,856人
受診率	0.88% 0.58% 1.94% 3.90% 3.76%
<b>むし歯予防教室</b>	
2歳頃までの幼児と保護者を対象に、歯みがき習慣の形成や良い食習慣についての集団指導を、各区保健センターで実施しています。	
実績	2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)
実施回数	117回 108回 108回 109回 98回
参加者数	1,481人 1,549人 1,525人 1,366人 1,141人
<b>妊産婦歯科健診</b>	
妊娠中あるいは、産後1年以内の妊産婦を対象に各区保健センターにて健診と保健指導を実施しています。	
実績	2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)
実施回数	120回 120回 120回 120回 120回
保健指導実施数	692人 693人 726人 708人 712人
<b>むし歯・歯周疾患予防啓発事業</b>	
むし歯・歯周疾患予防のために円山動物園を利用したイベントの開催や各種イベント・パネル展等を実施し、普及啓発事業を実施しています。	
<b>かかりつけ歯科医普及</b>	
企業関係団体と連携して講演会、歯と口の健康測定を実施しています。	
実績	2017 (H29)
参加人数	72人
健康度測定	22人
相談	11人

### ●むし歯や歯周疾患のある人を減らします。

主な取組	
<b>健康教育</b>	
各区保健センターでは、生活習慣病の予防、健康増進等に関して医師・歯科医師、薬剤師、保健師、栄養士、歯科衛生士等が健康教育を実施しています。	
実績	2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)
健康教育 (歯の健康) 実施回数	1回 1回 0回 2回 2回
健康教育 (歯の健康) 参加者数	11人 20人 0人 120人 150人
健康教育 (歯周疾患健康教育) 実施回数	10回 11回 10回 10回 10回
健康教育 (歯周疾患健康教育) 参加者数	423人 455人 346人 404人 245人
歯周疾患検診	(再掲)
妊産婦歯科健診	(再掲)
むし歯・歯周疾患予防啓発事業	(再掲)
かかりつけ歯科医普及	(再掲)

●むし歯のない子どもを増やします。

主な取組							
学校における歯科保健対策							
幼児、児童、生徒の歯・口腔の健康を保つため、各学校において「歯科健康診断」を実施しています。また、歯と口の健康づくり推進事業推進指定校や学校歯科保健優良校表彰への応募・歯と口の健康づくりに関する図画・ポスターコンクールの開催等を通じて、児童生徒へ歯・口腔の健康に関する普及・啓発を行っています。							
8020 セミナー(キッズ編)							
乳幼児、学童を対象に子育てサロンや児童会館で、歯科疾患の予防に関する知識の普及と情報提供を実施しています。							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>50回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>844人</td> </tr> </tbody> </table>	実績	2017 (H29)	実施回数	50回	参加人数	844人
実績	2017 (H29)						
実施回数	50回						
参加人数	844人						
健口ノート							
教育委員会、小学校の養護教諭と連携のもと、授業でも活用できる第1大臼歯のむし歯予防に関する内容の小冊子を作成し、小学1年生全員に配布しています。							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校送付数</td> <td>16,017部</td> </tr> </tbody> </table>	実績	2017 (H29)	学校送付数	16,017部		
実績	2017 (H29)						
学校送付数	16,017部						
むし歯予防教室	(再掲)						
むし歯・歯周疾患予防啓発事業	(再掲)						

●高齢になっても自分の歯を有する人を増やします。

主な取組																			
8020 セミナー(高齢者編)																			
地域の高齢者を対象に歯科疾患の予防や誤嚥性肺炎の予防に関する知識の普及啓発と情報提供を行っています。																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>108人</td> </tr> </tbody> </table>	実績	2017 (H29)	実施回数	4回	参加人数	108人												
実績	2017 (H29)																		
実施回数	4回																		
参加人数	108人																		
高齢者口腔ケア研修事業																			
医療、介護職員を対象とし、要支援・要介護高齢者の口腔状態の改善、機能の向上のための研修を行っています。また、一般高齢者を対象とした口腔ケア講習会も実施しています。																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>13回</td> <td>11回</td> <td>8回</td> <td>8回</td> <td>8回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>535人</td> <td>525人</td> <td>454人</td> <td>399人</td> <td>447人</td> </tr> </tbody> </table>	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	実施回数	13回	11回	8回	8回	8回	参加者数	535人	525人	454人	399人	447人
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)														
実施回数	13回	11回	8回	8回	8回														
参加者数	535人	525人	454人	399人	447人														
歯周疾患検診	(再掲)																		

●高齢になっても咀嚼機能が良好な人を増やします。

主な取組	
歯周疾患検診	(再掲)
高齢者口腔ケア研修事業	(再掲)
8020 セミナー(高齢者編)	(再掲)

(7) 健康行動

●特定健康診査、特定保健指導を受ける人を増やします。

主な取組																			
札幌市国民健康保険特定健康診査																			
札幌市国民健康保険に加入している40歳以上を対象に、実施医療機関及び住民集団健診会場において、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査を行っています。																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>2013 (H25)</th> <th>2014 (H26)</th> <th>2015 (H27)</th> <th>2016 (H28)</th> <th>2017 (H29)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>55,346人</td> <td>57,536人</td> <td>57,088人</td> <td>55,705人</td> <td>54,115人</td> </tr> <tr> <td>受診率</td> <td>18.8%</td> <td>19.7%</td> <td>20.0%</td> <td>20.3%</td> <td>20.2%</td> </tr> </tbody> </table>	実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	受診者数	55,346人	57,536人	57,088人	55,705人	54,115人	受診率	18.8%	19.7%	20.0%	20.3%	20.2%
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)														
受診者数	55,346人	57,536人	57,088人	55,705人	54,115人														
受診率	18.8%	19.7%	20.0%	20.3%	20.2%														

## 主な取組

### 札幌市国民健康保険特定保健指導

特定健康診査を受診した結果、生活習慣病発症の可能性が高いと判定された方を対象に、保健師や管理栄養士などによる特定保健指導を行い、生活習慣の改善を支援しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
終了者数	510人	479人	544人	599人	570人
実施率	7.4%	6.8%	7.8%	9.1%	8.9%

### 女性のフレッシュ健診

職場等で健診を受ける機会のない18歳～39歳までの家庭の主婦、自営業の女性を対象とし、札幌市中央健康づくりセンターで健康診査を実施しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	1,172人	997人	863人	714人	664人

### 生活保護世帯及び支援給付世帯の健康診査業務

健康保険未加入の生活保護・支援給付受給者及びホームレスに本市国民健康保険特定健康診査と同様の健康診査を実施します。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	383人	383人	376人	401人	419人

### 南区健康寿命延伸事業

健康寿命の延伸を図るため、健康阻害要因となっている病気などの分析を進めるとともに、健康や福祉に関するイベントの実施を通じて分析結果や具体的な予防法などを地域住民に広く周知します。

実績	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
健康寿命延伸関連イベントへの参加者数	4,230人	4,677人	4,966人

## ●生活習慣病の重症化を予防します。

### 主な取組

#### 生活習慣病重症化予防事業

特定健診を受診した結果、「要受診」と判定された未受診の者に対して、医療機関への受診勧奨を実施する。また治療中であるが病状コントロールが不良の者に対して、かかりつけ医と連携した保健指導を実施する。

札幌市国民健康保険特定健康診査	(再掲)
札幌市国民健康保険特定保健指導	(再掲)
札幌市健康づくりセンター	(再掲)
生活保護世帯及び支援給付世帯の健康診査業務	(再掲)
南区健康寿命延伸事業	(再掲)

## ●がん検診を受ける人を増やします。

### 主な取組

#### 胃がん検診

職場等でがん検診を受ける機会のない40歳以上の方を対象に、問診、胃部X線撮影による胃がん検診を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	39,634人	38,600人	39,458人	36,674人	34,242人
受診率	7.0%	6.9%	7.0%	6.5%	5.4%

#### 大腸がん検診

職場等でがん検診を受ける機会のない40歳以上の方を対象に、問診、免疫便潜血検査2日法による大腸がん検診を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	78,313人	78,936人	84,124人	71,778人	69,132人
受診率	13.9%	14.0%	14.9%	6.1%	5.8%

#### 子宮がん検診

職場等でがん検診を受ける機会のない20歳以上で偶数歳の女性を対象に、問診、視診、子宮頸部細胞診（医師の判断により子宮体部の細胞診）、内診による子宮がん検診を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	79,826人	86,672人	73,249人	66,366人	83,022人
受診率	32.7%	34.0%	32.6%	15.6%	16.0%



●がん検診を受ける人を増やします。

主な取組	
<b>乳がん検診</b>	
職場等でがん検診を受ける機会のない40歳以上で偶数歳の女性を対象に、問診、視診、触診、マンモグラフィ検査による乳がん検診を行っています。	
実績	2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)
受診者数	43,701人 47,620人 45,585人 40,962人 40,768人
受診率	22.8% 23.8% 24.3% 13.0% 12.2%
<b>肺がん検診</b>	
職場等でがん検診を受ける機会のない40歳以上の方を対象に、問診や胸部X線検査(問診の結果により喀痰細胞診)による肺がん検診を行っています。	
実績	2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)
受診者数	14,838人 16,412人 17,546人 17,353人 17,923人
受診率	2.6% 2.9% 3.1% 1.5% 1.5%
<b>前立腺がん検査(PSA検査)</b>	
札幌市に居住地を有する、職場等でPSA検査を受ける機会のない50歳の方を対象に、PSA検査に係る利益と不利益を説明した上で同意の署名を取得し、問診、PSA検査(血液検査)を行っています。(指定の医療機関)	
<b>未来を守ろうプロジェクト</b>	
若い世代に子宮頸がんについて啓発するプロジェクトとして、学生のアイデアを取り入れた啓発活動を行っています。	
<b>がん対策普及啓発キャンペーン実行委員会</b>	
「がんに関する正しい知識の普及啓発」を掲げ、様々な媒体を利用した普及啓発を実施するため、医療機関、がん患者団体、報道機関等を含めた関係機関と連携した実行委員会を設立しました。	
実績	2017 (H29)
実行委員会の参加機関数	9機関
がん患者の就労継続に向けた環境整備事業(がん対策認定企業制度) (再掲)	
南区健康寿命延伸事業 (再掲)	

●かかりつけ医を持つ人・小児科救急医療機関を知っている人を増やします。

主な取組	
<b>かかりつけ医などの普及促進</b>	
市民にかかりつけ医等を決めることの重要性を周知するため、かかりつけ医・歯科医・薬剤師ハンドブックを発行するとともに、普及促進イベント等を行います。	
実績	2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)
かかりつけ医を決めている市民の割合	58.5% - 61.6% -

●定期予防接種を受ける子どもを増やします。

主な取組		
<b>BCG 接種事業</b>		
小児結核の予防のため、予防接種法に基づき生後5か月から8か月に達するまでの期間を標準的な接種期間としてBCG接種事業を実施しています。		
実績	2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)	
接種者数	12,609人 14,439人 14,422人 14,241人 13,533人	
接種率	96.2% 99.5% 98.2% 99.6% 99.0%	
<b>予防接種事業</b>		
感染症予防のため、予防接種法に基づいて、定期予防接種を実施しています。(対象となる疾病：ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ、麻しん、風しん、日本脳炎、B型肝炎、ヒブ感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症、水痘、結核 [BCG])		
定期予防接種(A類)の接種機会を確保するため、2018年度(平成30年度)より里帰り出産等により市外の医療機関で接種する市民に対し定期予防接種費用助成制度を開始し、今後も継続して実施します。		
実績	2013 (H25) 2014 (H26) 2015 (H27) 2016 (H28) 2017 (H29)	
麻しん風しん混合(MR)接種率	I期	94.9% 99.4% 97.2% 97.1% 97.7%
	II期	92.2% 92.1% 90.0% 90.5% 90.1%

●インフルエンザの予防接種を受ける高齢者を増やします。

主な取組					
高齢者インフルエンザ予防接種事業					
65歳以上の高齢者、または60～64歳の方で、心臓、じん臓若しくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障がいを持つ方（障害等級1級またはそれに準じる方）を対象に、市内の委託医療機関でインフルエンザの予防接種を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
接種者数	209,754人	222,737人	219,977人	229,478人	225,191人

●HIVの早期発見に努めます。

主な取組					
性感染症予防事業					
思春期ヘルスケア事業や大学・専門学校・PTA等を対象とした健康教育、医療機関との連携により、性感染症予防および治療に関する正しい知識の普及啓発を行っています。					
エイズ予防					
①ポスター、パンフレット、リーフレットの作成や配付等による正しい知識の普及啓発を行っています。 ②保健所・各区保健センターでの相談窓口体制に加え、保健センターにおけるエイズ相談専用電話を実施しています。 ③世界エイズデー(12月1日)関連事業として、各種エイズ予防啓発事業を実施しています。 ④各区保健福祉部医師、看護師、保健師のカウンセリング研修等への参加を行っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
電話相談件数	220件	140件	79件	49件	65件
HIV抗体検査					
各区保健センターで毎月2回、匿名・無料のHIV抗体検査を実施しています。また、夜間HIV検査を毎月1回、休日HIV検査を年2回実施しています。さらに、民間に運営を委託した検査センターで土曜日検査を実施しています。HIV感染と関連のある梅毒への対策を強化検討するため、2018年度(平成30年度)よりHIV抗体検査(土曜日検査を除く)に合わせた梅毒検査を開始し、今後も継続して実施します。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受検者数	1,971人	1,984人	1,776人	1,613人	1,600人

●その他の取組

主な取組					
肝炎ウイルス検査					
札幌市に在住している方でこれまでに肝炎ウイルス検査を受けたことのない方を対象に、委託医療機関で無料の肝炎ウイルス検査を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受検者数	48,772人	42,296人	39,616人	39,654人	37,717人
感染症予防対策					
①感染症に関する正しい知識の普及：感染症を予防するとともに、感染症患者に対する差別や偏見をなくすため、各種パンフレットや広報さっぽろなどのほか、マスコミ報道等を通して市民に感染症に関する正しい知識の普及に努めています。 ②結核・感染症発生動向調査：結核及び感染症の患者発生数等を収集・分析の上、教育委員会、市医師会等に還元するなど、感染症流行予測と予防啓発に役立てています。また、主要感染症について札幌市分のデータに独自の分析・コメントを加え、市衛生研究所ホームページ上で公開しています。					
感染拡大防止対策					
患者が発生したとき、必要に応じて保健所が感染症指定医療機関への入院勧告や特定職種への就業を制限するなどの措置を行っています。また、患者及び接触者の健康診断を行うほか、疫学調査を実施し、原因究明と感染拡大防止を図っています。					
結核の接触者健康診断					
結核のまん延を防止するため、接触者等を対象として実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
対象者数	3,119人	5,157人	5,174人	4,244人	3,991人
接種率	98.1%	99.3%	96.3%	96.0%	96.1%

## (8) 親子の健康

### ●未受診妊婦を減らします。

主な取組					
<b>妊婦支援相談事業</b>					
妊婦届出書の提出時に面接相談を実施し、支援が必要な妊婦に対して、家庭訪問等による継続支援を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
面接相談数	15,219件	14,949件	14,810件	14,265件	14,012件
継続支援実施数	890件	830件	887件	972件	954件
<b>母子健康手帳の交付</b>					
妊婦届出書を提出した妊婦に対して、各区保健センターで交付しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
交付人数	15,259人	15,203人	14,902人	14,354人	14,114人
<b>初妊婦訪問事業</b>					
初妊婦全員を対象として、妊娠期間中に保健師や母子保健訪問指導員が各家庭に訪問指導を実施し、妊娠中から出産・育児のイメージを持ち、安心して出産、育児ができるよう支援しています。					
実績	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)		
件数	935件	2,612件	2,595件		
<b>母親教室</b>					
初妊婦およびその配偶者を対象として、各区保健センターで妊娠、出産、育児等に関する保健指導を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
開催回数	405回	327回	298回	289回	268回
参加者数(延べ数)	7,909人	6,107人	5,210人	4,811人	4,202人
<b>両親教室・父親教室</b>					
初妊婦およびその配偶者を対象として、各区保健センターで妊娠、出産、育児等に関し、主に父親の役割を中心に保健指導を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
開催回数	39回	34回	38回	41回	39回
参加者数(延べ数)	2,646人	2,326人	2,670人	2,657人	2,699人
<b>ワーキング・マタニティスクール</b>					
働きながら出産・育児をする初妊婦およびその配偶者を対象として、働きながら妊娠、出産、育児等をするために必要な保健指導等を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
開催回数	6回	6回	6回	6回	6回
参加者数	294人	388人	284人	357人	336人
<b>女性の健康支援相談</b>					
妊婦、産婦を含む、思春期から更年期に至る女性を対象に、妊娠・出産・産後の健康相談、育児相談、家族計画、性や性感染症、不妊、更年期障害など女性の心身に関する相談を行っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
開催回数	144回	144回	144回	144回	49回
参加者数	53人	147人	52人	72人	55人
<b>妊婦一般健康診査</b>					
妊婦を対象として、「より安全で安心な出産」を迎えるために、公費負担により、14回の健康診査を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数(延べ数)	172,311人	174,883人	173,306人	166,286人	164,852人
<b>保健センターでの電話相談</b>					
妊娠・出産・産後の健康相談、育児やお子さんの健康に関する相談などについて、電話相談を行っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
電話相談	18,628件	14,373件	19,377件	19,586件	20,042件

●低出生体重児が生まれる要因について正しい知識を持つ人を増やします。

主な取組					
母子保健訪問指導					
妊産婦、未熟児、新生児等を対象として、保健師及び母子保健訪問指導員により家庭訪問を行い、必要な保健指導を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
相談件数(妊産婦)	14,310件	15,036件	15,003件	15,349件	15,880件
初妊婦訪問事業	(再掲)				
妊婦一般健康診査	(再掲)				
母親教室	(再掲)				
両親教室・父親教室	(再掲)				
ワーキング・マタニティスクール	(再掲)				
女性の健康支援相談	(再掲)				
保健センターでの電話相談	(再掲)				

●安心して育児ができる母親を増やします。

主な取組					
保健と医療が連携した育児支援ネットワーク事業(育児支援家庭訪問事業)					
市内の医療機関において、「育児支援が必要」と判断された親子に対し、医療機関と各区の保健センターが連携を図りながら育児不安の軽減および児童虐待発生予防のために家庭訪問等による育児支援を行っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施件数	850件	865件	903件	933件	920件
産後ケア事業					
生後4か月未満のお子さんがおり、家族等から十分な援助が得られず、かつ心身の不調または育児不安等がある産婦を対象に、市内の助産所において、宿泊または日帰りで休養の機会を提供し、母子の健康管理や育児に関する助言指導を行います。					
実績	2016 (H28)	2017 (H29)			
利用件数	180件	337件			
4か月児健康診査					
4か月児を対象として、健全育成と疾病等の早期発見を図るため健康診査と保健指導を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	14,465人	14,458人	14,301人	14,144人	13,701人
1歳6か月児健康診査					
乳児から幼児への移行期にあたり、身体・精神および行動発達状況をチェックするとともに、育児指導、歯科健診を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	14,106人	14,133人	13,983人	14,292人	14,055人
3歳児健康診査					
幼児期における身体および精神の発達状況をチェックするとともに歯科健診、保健指導を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	13,945人	13,956人	13,740人	13,999人	13,992人
5歳児健康診査・5歳児発達相談					
5歳児を対象として、発育・発達の確認や育児支援、就学に向けた準備への支援等を行うため健康診査・発達相談を実施しています。					
実績	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
受診者数	380人	618人	673人	725人	
相談者数	226人	546人	614人	696人	
乳幼児健康診査					
健全育成を図るため、10か月児および経過観察を要する乳幼児に対し、健康診査と保健指導を実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	13,447人	13,796人	14,081人	13,865人	13,386人
乳児・1歳6か月児・3歳児・5歳児精密健康診査					
乳児・1歳6か月児・3歳児及び5歳児健康診査の結果、精密健診を要する児に対し、市内の医療機関に委託し、実施しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受診者数	2,286人	2,354人	2,805人	3,234人	3,559人

## 主な取組

### 乳幼児精神発達相談

言語・情緒発達に心配のある乳幼児とその親に対し、子どもの発育・発達を促すとともに、良好な親子関係の構築と育児不安の軽減を図るため、各区保健センターにおいて個別の発達相談を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
相談件数(延べ数)	2,230人	2,261人	2,257人	2,216人	2,216人

### 小児慢性特定疾病児童等療育相談支援事業

慢性疾病にかかっていることにより長期療養を必要としている子どもやその家族に対し、療養上や日常生活上の悩みや不安などについての相談や助言、福祉サービスなどの情報提供を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施件数	141件	138件	211件	312件	271件

### 離乳期講習会

乳児の母親を対象として、離乳に関する保健指導を実施しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施回数	215回	227回	217回	214回	216回

### 育児教室

乳幼児と母親を対象に、子どもの発育、発達に合った育児の保健指導や情報交換を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
開催回数	439回	353回	401回	396回	391回
参加者数	15,407人	12,117人	14,377人	14,090人	12,859人

### 子育てサロン

子育てが家庭が気軽に集い、自由に交流や情報交換ができる「子育てサロン」の設置を進めています。地域の関係者により運営されている地域主体の子育てサロン、児童会館等での子育てサロンに加え、週3回開催の常設子育てサロンの設置を進め、社会全体で子育て家庭を支えるまちづくりを推進しています。

実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
①地域主体の子育てサロン	設置数	175カ所	173カ所	170カ所	168カ所	168カ所
	開催回数	3,236回	2,788回	2,820回	2,788回	2,532回
	利用者数(延べ数)	117,914人	107,063人	97,013人	92,545人	81,479人
②常設子育てサロン	設置数	51カ所	63カ所	74カ所	76カ所	76カ所
	開催回数	4,295回	7,343回	9,503回	9,803回	9,251回
	利用者数(延べ数)	150,776人	150,352人	309,815人	332,738人	295,094人
③公設の子育てサロン(子育て支援総合センター、区保育・子育て支援センター)	設置数	8カ所	8カ所	9カ所	9カ所	9カ所
	開催回数	2,494回	2,494回	2,808回	2,799回	2,799回
	利用者数(延べ数)	144,900人	155,117人	171,446人	182,325人	173,426人
④児童会館の子育てサロン※児童会館での常設子育てサロン59箇所を含む	設置数	100カ所	100カ所	100カ所	100カ所	100カ所
	開催回数	5,951回	6,705回	8,198回	8,954回	8,135回
	利用者数(延べ数)	264,295人	284,972人	311,469人	331,356人	273,959人

### 子育て講座

子育てに必要な情報を提供したり、乳幼児の心身の発達や親子のかかわりなどについて学ぶ機会を提供しています。

実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
子育て支援総合センター	開催回数	32回	32回	33回	32回	32回
	利用者数(延べ数)	1,107人	1,134人	1,006人	1,113人	976人
区保育・子育て支援センター(7カ所) 区子育て支援係(10区)	開催回数	165回	152回	275回	354回	322回
	利用者数(延べ数)	3,584人	3,318人	8,976人	12,133人	10,656人

### 子育て相談

子育てや子どもの成長発達における心配事や悩み事などの相談について、電話または面談により行っています。

実績		2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
相談件数	子育て支援総合センター	592件	605件	1,069件	792件	546件
	区保育・子育て支援センター(7カ所) 区子育て支援係(10区)	3,446件	3,664件	3,353件	3,193件	3,345件

### 出前子育て相談ピンポ〜んこにちは

家庭訪問による相談を希望する子育て家庭に、子どもへのかかわり、具体的な遊び方や情報提供を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
区子育て支援係(10区)	35件	32件	26件	39件	37件

### 札幌市産婦人科救急電話相談

夜間の急な産婦人科系疾患について、毎日午後7時から翌午前9時までの間、助産師が電話で相談を受け、必要に応じて医療機関への搬送調整を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
電話相談件数	1,565件	1,513件	1,384件	1,463件	1,815件

## 主な取組

### 妊婦甲状腺機能検査

妊婦を対象として、甲状腺機能異常の早期発見、早期治療を図るため、血液によるスクリーニング検査を市衛生研究所で実施しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
検査人数	9,548人	9,540人	9,375人	9,020人	8,201人

### 新生児マススクリーニング検査

新生児を対象として、先天性代謝異常等の早期発見、早期治療を図るため出生した市内の医療機関で採血し、市衛生研究所で検査を実施しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受検者数	16,360人	16,465人	16,474人	15,877人	15,834人

### 胆道閉鎖症検査

1か月児を対象として、胆道閉鎖症の早期発見、早期治療を図るため、便色調によるスクリーニング検査を市衛生研究所で実施しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受検者数	13,951人	14,310人	14,503人	14,118人	14,058人

### 夜間急病センター事業

夜間(午後7時から翌朝午前7時の間)の急病患者の応急処置を行っています。小児科においては、患者の集中する土・日・祝日・年末年始の準夜帯(午後7時から午前0時までの間)に医師を増員するなど、診療面を強化しています。

### 休日救急当番運営事業・二次救急医療機関運営事業等

土日祝日などの休日における初期救急医療体制や、より大きなけがや病気の際に休日及び夜間に対応する二次救急医療機関の調整を行い、市民が安心して生活できる確実な救急医療体制の整備を行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
救急告示参画医療機関数	54カ所	52カ所	52カ所	52カ所	52カ所
二次救急医療機関制度参画医療機関数(小児科)	12カ所	11カ所	11カ所	11カ所	11カ所

### さっぽ・こども広場

保健センターから紹介された発達に気にかかる子どもに対して、保健センターや児童会館などの地域の会場で月1回または週1回、専門スタッフ(保育士・心理療法士)が小集団での遊びを通して子どもの発達を促し、保護者の悩みや相談に応じています。また、保護者に必要な情報を提供し、個々の子どもの適切な進路をともに考えています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
出席者数(実数)	1,276人	1,395人	1,756人	1,636人	1,604人
出席者数(延べ数)	8,976人	8,886人	9,204人	8,672人	8,468人

### 幼児教育相談

就学前の幼児の発達上の問題、幼稚園等における適応上の問題、保護者の子育ての悩み、小学校入学などに関する教育相談を来所および電話で行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
来所相談件数	1,284件	1,270件	1,346件	1,498件	1,438件
電話相談件数	2,040件	1,958件	2,128件	2,222件	2,121件

### 教育相談

不登校や特別支援教育に関わる教育相談を来所および電話で行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
来所相談件数	4,555件	3,430件	3,390件	3,100件	4,310件
電話相談件数	1,828件	2,443件	3,064件	3,367件	3,942件

### 教育支援センター設置事業

学校に通うことが難しい子どもに対応するため、学校以外の場における子ども支援のあり方を調査研究し、子どもが抱えている不安や悩み等を和らげる居場所を設置しています。(2011年度(平成23年度)から2014年度(平成26年度)に実施。2013年度(平成25年度)、2014年度(平成26年度)に1か所ずつ、計2か所に設置)

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
見学件数	117件	142件	103件	137件	153件
体験件数	67件	92件	78件	92件	100件
通室登録数	42件	67件	66件	91件	118件
状況改善率	38%	46%	50%	63%	70%

### ポロップひろば(未就学児の子育て広場)

各区市立幼稚園にて、就学前の子ども(主に2~6歳児)と保護者を対象にした子育て広場。月1~2回(開催日、開催時間は各幼稚園ごとに違う)園庭や園舎で親子で遊ぶことができ、その中で子どもとのかかわり方や就園、就学に向けた教育相談も行っています。(2012年度(平成24年度)開始)

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	6,828人	5,654人	5,949人	6,216人	5,789人

主な取組

幼児の地域教育相談

就学前の幼児の発達上の問題、幼稚園等における適応上の問題、保護者の子育ての悩み、小学校入学などに関する教育相談を市立幼稚園・認定こども園を会場に、来所および電話で行っています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
来所相談件数	2,545 件	2,894 件	3,224 件	3,554 件	3,460 件
電話相談件数	457 件	277 件	1,474 件	1,805 件	1,646 件

産婦人科救急医療体制

- ①夜間に救急搬送が必要となった妊産婦等に対して適切な医療を迅速に提供できるように、医療機関の受入れ可否情報の集約、案内を行う情報オペレーター業務を実施しています。
- ②助産師による夜間の産婦人科に関する救急電話相談窓口を開設し、毎日午後 7 時から翌午前 9 時までの間、産婦人科の症状で不安をお持ちの市民からの電話相談に対応しています。
- ③情報オペレーターが収集した受入れ可否の情報をもとに、症状、週数等に応じて、適切な救急医療機関に搬送等を行う仕組みを構築しており、参画する医療機関に対して補助金を交付しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
産婦人科二次・三次救急医療体制参画医療機関数	12 カ所	12 カ所	11 カ所	11 カ所	11 カ所
夜間における NICU 空床確保率	100%	100%	98.4%	100%	99.5%

神経芽腫スクリーニング検査

1歳6か月児を対象として、神経芽腫の早期発見、早期治療を図るため尿によるスクリーニング検査を市衛生研究所で実施しています。(2016年度(平成28年度)で事業休止)

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
受検者数	9,953 人	9,752 人	9,547 人	8,052 人	-

妊婦一般健康診査	(再掲)
母子保健訪問指導	(再掲)
妊婦支援相談事業	(再掲)
初妊婦訪問事業	(再掲)
保健センターでの電話相談	(再掲)

●乳幼児の SIDS (乳幼児突然死症候群) による死亡を減らします。

主な取組

初妊婦訪問事業	(再掲)
母子保健訪問指導	(再掲)
母親教室	(再掲)
両親教室・父親教室	(再掲)
ワーキング・マタニティスクール	(再掲)
育児教室	(再掲)
4か月児健康診査	(再掲)
1歳6か月児健康診査	(再掲)
3歳児健康診査	(再掲)
5歳児健康診査・5歳児発達相談	(再掲)
乳幼児健康診査	(再掲)
乳児・1歳6か月児・3歳児・5歳児精密健康診査	(再掲)
新生児マスキューニング検査	(再掲)

●不慮の事故による乳幼児の死亡を減らします。

主な取組

初妊婦訪問事業	(再掲)
母子保健訪問指導	(再掲)
母親教室	(再掲)
両親教室・父親教室	(再掲)
ワーキング・マタニティスクール	(再掲)
育児教室	(再掲)
4か月児健康診査	(再掲)
1歳6か月児健康診査	(再掲)
3歳児健康診査	(再掲)
5歳児健康診査・5歳児発達相談	(再掲)
乳幼児健康診査	(再掲)
乳児・1歳6か月児・3歳児・5歳児精密健康診査	(再掲)

● 児童虐待を予防します。

主な取組					
<b>札幌市要保護児童対策地域協議会</b>					
児童虐待予防・防止に関して活動している関係機関を集め、情報の共有化、事例検討等を行い、連携の強化を図っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
開催回数	1回	1回	1回	1回	1回
<b>区要保護児童対策地域協議会</b>					
各区健康・子ども課家庭児童相談室において、児童虐待予防・防止、早期発見および虐待事例への円滑な支援を行う地域ネットワークを構築するため、関係機関代表者による連絡調整会議、事例検討会、研修会等を行っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
開催回数	235回	245回	174回	256回	287回
<b>オレンジリボン地域協力員養成事業</b>					
児童虐待の早期発見・早期対応を図るため、民生委員児童委員、主任児童委員、青少年育成委員、一般市民等を対象に研修会を開催し、オレンジリボン地域協力員の養成を行っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
研修会実施回数	51回	33回	27回	27回	28回
妊婦支援相談事業	(再掲)				
保健と医療が連携した育児支援ネットワーク事業(育児支援家庭訪問事業)	(再掲)				
初妊婦訪問事業	(再掲)				
母子保健訪問指導	(再掲)				
女性の健康支援相談	(再掲)				
母親教室	(再掲)				
保健センターでの電話相談	(再掲)				
両親教室・父親教室	(再掲)				
ワーキング・マタニティスクール	(再掲)				
産後ケア事業	(再掲)				
4か月児健康診査	(再掲)				
1歳6か月児健康診査	(再掲)				
3歳児健康診査	(再掲)				
5歳児健康診査・5歳児発達相談	(再掲)				
乳幼児健康診査	(再掲)				
乳児・1歳6か月児・3歳児・5歳児精密健康診査	(再掲)				
育児教室	(再掲)				
子育てサロン	(再掲)				
子育て講座	(再掲)				
子育て相談	(再掲)				
出前子育て相談ピンポ〜んこんにちは	(再掲)				
さっぽろこども広場	(再掲)				
幼児教育相談	(再掲)				
教育相談	(再掲)				
教育支援センター設置事業	(再掲)				
ポロップひろば(未就学児の子育て広場)	(再掲)				
幼児の地域教育相談	(再掲)				

● 10歳代の望まない妊娠を防ぐために、避妊法に関する正しい知識を持つ人を増やします。

主な取組					
<b>思春期ヘルスケア事業(再掲)</b>					
市内の小・中・高校の児童・生徒を対象とし、各区保健センターの専門職が、性(生命)や性感染症等に関する健康教育を行っています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
実施回数	117回	131回	152回	140回	150回
参加者数	13,285人	14,495人	16,458人	16,677人	16,691人
<b>若者の性の健康相談</b>					
10～20歳代の方を対象に、性や性感染症・避妊等の悩みについて各区保健センターで相談を行っています。また、性感染症や避妊に関するパンフレットを市内の医療機関に送付し、指導や相談に活用するよう啓発しています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
医療機関相談件数	6,742件	13,075件	12,610件	13,425件	12,940件
保健センター相談件数	165件	86件	61件	32件	30件



主な取組					
思春期・婚前健康教育等					
家族計画、母性保護等について正しい知識の普及指導をしています。					
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
開催回数	7回	2回	4回	4回	3回
参加者数	408人	183人	508人	317人	124人
女性の健康支援相談					(再掲)

● 性感染症に関する正しい知識を持つ人を増やします。

主な取組	
思春期ヘルスケア事業	(再掲)
若者の性の健康相談	(再掲)
女性の健康支援相談	(再掲)
思春期・婚前健康教育等	(再掲)

● 薬物に関する正しい知識を持つ人を増やします

主な取組	
思春期ヘルスケア事業	(再掲)
若者の性の健康相談	(再掲)
女性の健康支援相談	(再掲)
思春期・婚前健康教育等	(再掲)

● その他の取組

主な取組						
次世代育成支援事業						
小・中・高校生に乳幼児とのふれあいや、子育てに関する多様な体験の機会を提供し、ふれあう楽しさ、命の尊さ、男女が共に育児にかかわることの大切さなどを伝えています。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
子育て支援総合センター	開催回数	116回	172回	116回	144回	71回
	参加者数	1,425人	1,567人	1,147人	1,491人	857人
区保育・子育て支援センター(7カ所)、区子育て支援係(10区)	開催回数	1,017回	1,037回	440回	378回	479回
	参加者数	15,871人	16,049人	11,376人	9,087人	11,971人
少年育成指導員による巡回・相談						
喫煙や念学など子どもの問題に対応するため、繁華街や商業施設等を巡回して声かけや指導等を行うとともに、悩みを抱えている子への相談にも対応するなど、青少年の健全育成や非行化防止に向けた取組を行っています。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
巡回指導件数	7,377回	6,992回	6,028回	5,968回	6,956回	
相談件数	32件	36件	35件	34件	24件	
子どもの権利救済機関(子どもアシストセンター)						
いじめなどの子どもに関する相談に幅広く応じるとともに、権利侵害からの救済の申し立て等に基づき、公的第三者の立場で、問題解決に向けた調査や関係者間の調整を行います。						
実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	
相談件数(実数)	1,035件	1,046件	1,000件	833件	943件	
相談件数(延べ数)	3,247件	3,713件	4,074件	3,515件	3,299件	

(9) 健康を支えるための社会環境の整備

主な取組	
札幌圏地域・職域連携推進連絡会札幌部会	
地域保健と職域保健の連携により、健康づくりのための健康情報の共有や保健事業の共同実施、さらに健康づくりに関する社会資源の相互活用を行い、生涯を通じた継続的な保健サービスの提供体制を整備し、生活習慣病予防対策を推進します。	

## 主な取組

### 健康づくりネットワーク促進

地域の健康づくり自主活動グループなどで構成される各区の健康づくり組織の活動活性化やネットワーク化を支援するために、各区保健センターでの研修等を開催しています

### 健康なまちづくりフォーラム in さっぽろ

「市民との協働による健康なまちづくり」を推進するため、各区で健康づくり活動に取り組む市民が一堂に会し、各区の先駆的取組の実践報告や札幌市の健康づくりの方針を共有し、住民主体の健康づくり活動の継続と活性化を推進します。

### 健康さっぽろ 21 の推進に関する包括的連携協定

市民の健康づくりを支える環境の整備のために、企業等との連携による効果的な普及啓発を行い、市民の健康増進を図ります。年 1 回情報交換会を開催し、市の課題の情報提供や各企業等の取組の共有を行うことにより、企業等の取組を支援します。

実績	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
協定締結企業・団体数	10 者	13 者	14 者	19 者

### さっぽろ医療ガイド

市民に札幌市の医療体制を周知し、医療に関する相談窓口などを案内する「さっぽろ医療ガイド」を発行しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
さっぽろ医療ガイドの普及度	未調査	未調査	未調査	0.3%	0.3%

### 医療アドバイザー制度

医療機関のかかり方など、市民の医療に関する相談ニーズに対応するため、専門家等を医療アドバイザーとして登録し、地域における学習会などに派遣します（2014 年度（平成 26 年度）から実施）。

実績	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
医療アドバイザー登録数	10 人	10 人(1 団体)	10 人(2 団体)	10 人(2 団体)

### 救急安心センターさっぽろ

急な病気やけがなどで、病院に行くべきか救急車を呼ぶべきか迷った時、看護師が電話で医療相談を行ったり、診療時間中の医療機関の案内を 24 時間 365 日行う「救急安心センターさっぽろ」を運営しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
連携自治体数	0	2	3	4	4
市民認知度	未調査	43%	未調査	33%	未調査
相談件数	14,647 件※	33,001 件	43,525 件	46,106 件	52,005 件

※2013 年度（平成 25 年度）は 10 月 1 日からの件数

### 医療安全相談窓口の運営

既存の医療安全相談窓口を充実し、医療安全に関する市民への情報提供や相談機能、普及啓発を強化します。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
相談件数	1,637 件	1,894 件	2,155 件	2,089 件	2,146 件
医療相談窓口の認知度	未調査	8.9%	未調査	8.3%	未調査

### 薬物乱用防止の推進

薬物の危険性や乱用の防止等に関して市民に向けた啓発を行います。市独自の事業のほか、関係団体とも連携し、広範に普及啓発を行います。

### 食の安全確保対策

- ①食の安全を確保するため、年度ごとに市民等の意見を取り入れた「札幌市食品衛生監視指導計画」を策定し、効率的かつ重点的な立入検査や衛生講習会等を行っています。
- ②食品衛生パネル展や食中毒予防に関するパンフレット等により市民に対し正しい食品衛生知識の普及啓発を行っています。
- ③食の安全・安心市民交流事業の開催等により、市民や食品事業者と食の安全確保に関する情報や意見の交換を行っています。

### 環境衛生対策

建築物や環境衛生関係施設（公衆浴場、理・美容所など）の衛生状態の維持・向上を図るため、年度ごとに事業計画を策定し、立入検査等を行っています。また、住まいの衛生を含めた環境衛生に関する市民相談や普及啓発事業に取り組んでいます。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
環境衛生営業施設等への監視指導件数	3,289 件	3,322 件	3,058 件	2,575 件	2,469 件
住まいの衛生展等開催件数	14 件	14 件	13 件	12 件	7 件
環境衛生関係相談件数	4,104 件	3,960 件	3,543 件	3,224 件	3,540 件

### 札幌市公共建築物シックハウス対策

札幌市の公共建築物の管理に携わる職員等に対し、「札幌市公共建築物シックハウス対策指針」の遵守を徹底するとともに、同指針に関する説明会や研修を毎年実施しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
説明会・研修開催回数	3 回	2 回	2 回	2 回	2 回
参加者数	152 人	125 人	124 人	131 人	131 人

### 市民相談事業

保健所では、家庭、地域等における食の安全等や良好な生活環境を確保するため、種々の市民相談を実施しています。

実績	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
食品衛生関係相談件数	2,651 件	1,838 件	2,092 件	2,032 件	1,670 件
環境衛生関係相談件数（再掲）	4,104 件	3,960 件	3,543 件	3,224 件	3,540 件

## 主な取組

### 地域の保健福祉課題に応じた健康なまちづくり推進事業

少子高齢化及び地域連帯感の希薄化により、孤立する親子や高齢者が増加するとともに生活習慣病の重症化や虐待の増加など複雑多様化する地域の保健福祉の課題を解決し、市民が安心して住み慣れた地域で生活していけるよう関係者等とのネットワークを構築します。

### 高齢者等の在宅医療ネットワーク推進事業

在宅医療提供体制を整備するため、医療従事者（医師、看護師等）の人材育成研修を実施し、グループ診療として後方支援体制を運営します。また、市民に対しては、「在宅医療ガイドブック」の発行等により、在宅医療を周知します。

実績		2014 (H26)
訪問診療を提供する医療機関の割合	病院	23.4%
	一般診療所	12.7%
	歯科診療所	11.4%

がん患者の就労継続に向けた環境整備事業(がん対策認定企業制度)

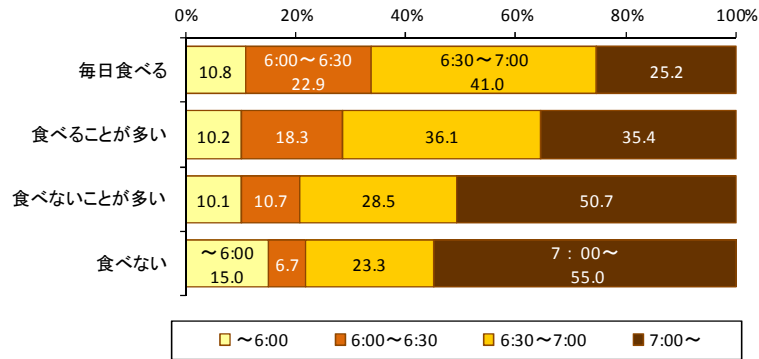
(再掲)

がん対策普及啓発キャンペーン実行委員会

(再掲)

# 資料編 4 指標関連データ

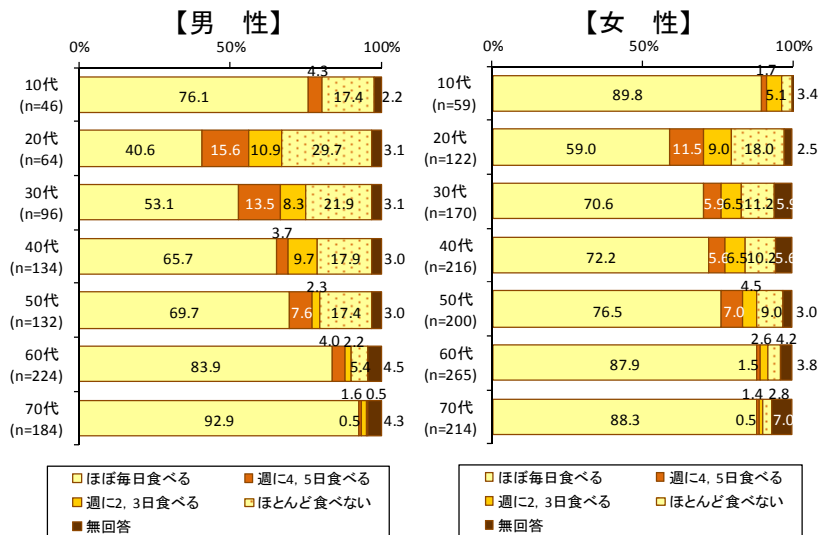
## (1) 朝食摂取と起床時刻 (小学5年生)



小学生の朝食摂取と起床時刻を調べた調査では、毎日朝食を食べる児童は、食べない児童と比較して、起床時刻が早い傾向がみられた。

資料：2016年度(平成28年度)札幌市の児童・生徒の健康と食生活に関する調査(札幌市学校給食栄養士会)

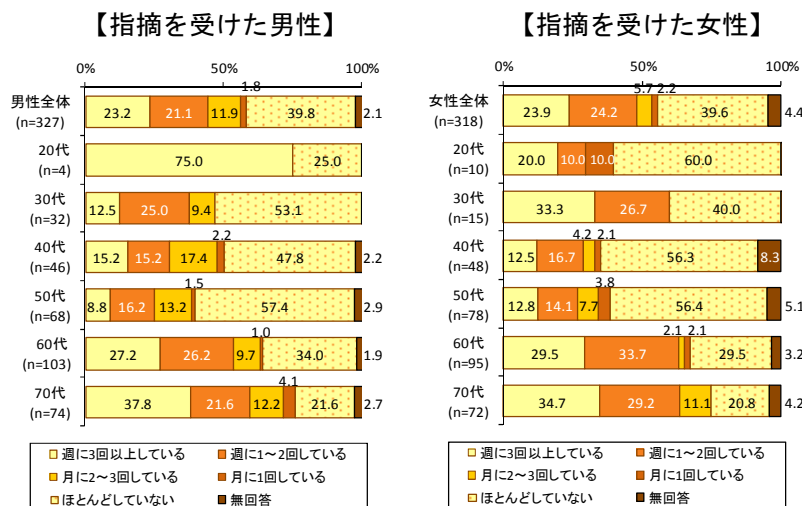
## (2) 朝食の摂取状況



毎日朝食をとる人の割合は、男性では20歳代が最も低く40.6%であった。女性の20歳代では、男性よりも割合は高いものの、59.0%と他の年代よりも低くなっていた。

資料：健康づくりに関する市民意識調査

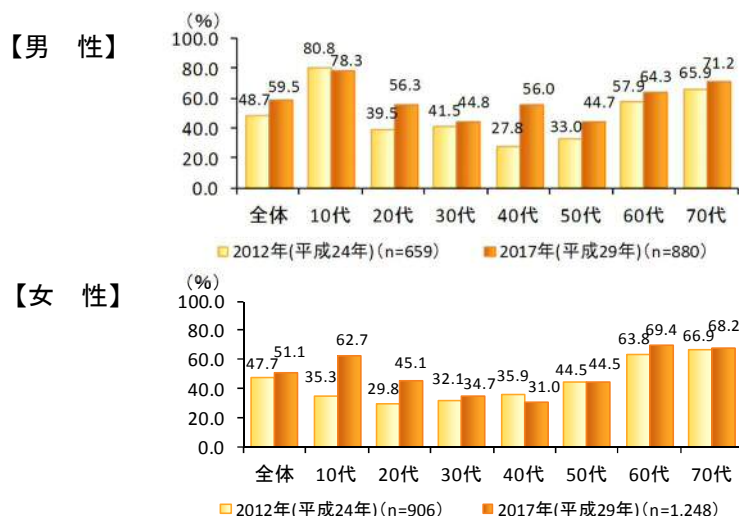
## (3) 健診で高血圧、脂質異常、糖尿病のいずれかの指摘を受けた人の運動の状況 (性別・年代別)



健診で高血圧、脂質異常、糖尿病いずれかの指摘を受けた人で、運動を「週に3回以上している」「週に1~2回している」と回答した割合は、男女ともに60歳代以上が高く、「ほとんどしていない」は40、50歳代で高い傾向にあった。

資料：健康づくりに関する市民意識調査

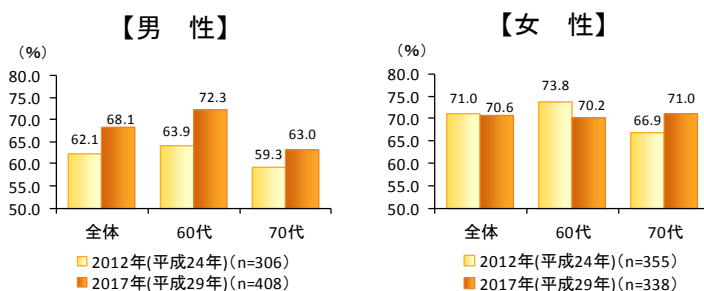
#### (4) 意識的に運動している人の割合



意識的に運動している 15 歳以上の人の割合は、男性は有意な増加が見られ、女性も有意差は確認できなかったが増加が見られた。年代別には、女性は 10～40 歳代の割合が男性よりも低くなっていた。

資料：健康づくりに関する市民意識調査

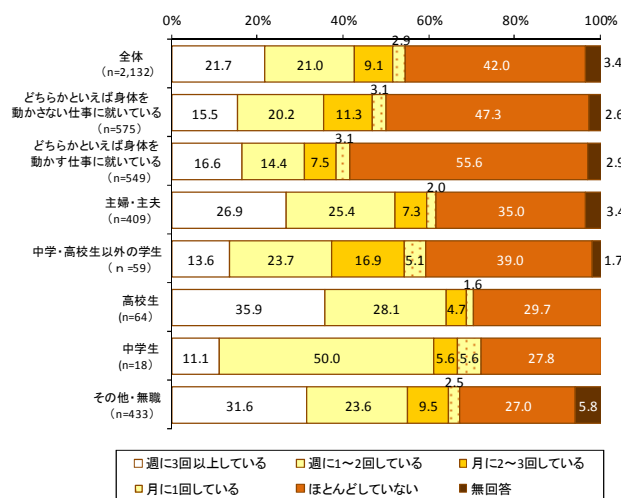
#### (5) 外出に積極的な 60 歳以上の人の割合



資料：健康づくりに関する市民意識調査

外出に積極的な 60 歳以上の人の割合については、男女ともに有意差は確認できなかったが、策定時から男性は増加し、女性は減少している。70 歳代では、男性よりも女性の方が割合が高かった。

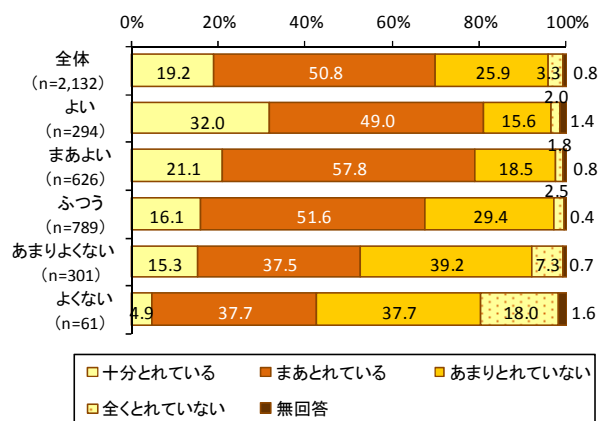
#### (6) 日常の運動習慣（職業別）



職業別の日常の運動習慣については、仕事に就いている人は運動を「ほとんどしていない」割合が高く、「身体を動かさない仕事」では 47.3%、「身体を動かす仕事」では 55.6%であった。

資料：健康づくりに関する市民意識調査

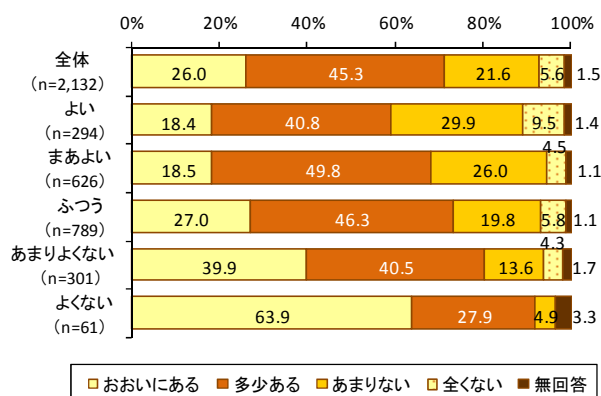
## (7) 睡眠による休養（健康状態別）



資料：健康づくりに関する市民意識調査

睡眠による休養状況を健康状態別にみると、健康状態が「よい」「まあよい」では、休養を「十分とれている」「まあとれている」が約8割であるが、健康状態が「あまりよくない」「よくない」では、休養を「あまりとれていない」「全くとれていない」の割合が高くなっていった。

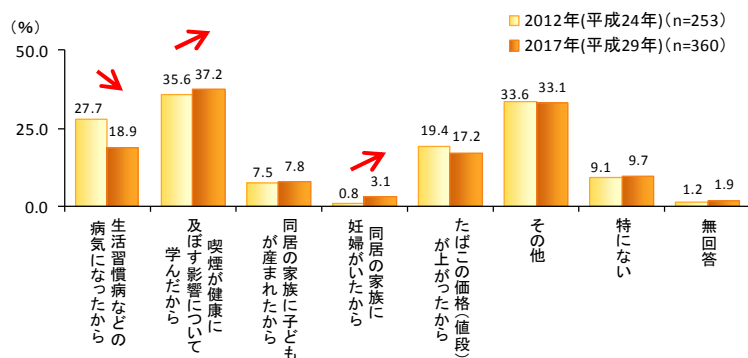
## (8) ストレス（健康状態別）



ストレスの状況を健康状態別にみると、健康状態がよくないと感じている人の方が、ストレスが「おおいにある」と感じていた。

資料：健康づくりに関する市民意識調査

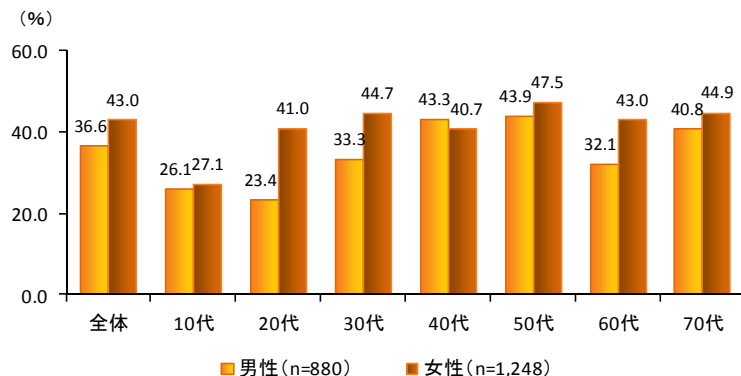
## (9) 禁煙のきっかけ



資料：健康づくりに関する市民意識調査

禁煙のきっかけについては、「生活習慣病などの病気になったから」は計画策定時より低下しており、「喫煙が健康に及ぼす影響について学んだから」「同居の家族に妊婦がいたから」が上昇していた。

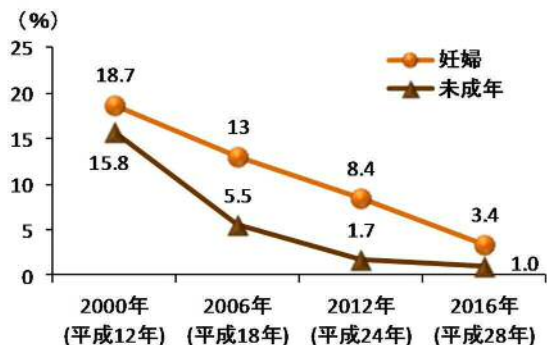
## (10) COPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っている人の割合



COPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っている人の割合は、全国より高く、40歳代を除くすべての年代で女性の方が割合が高くなっていた。

資料：健康づくりに関する市民意識調査

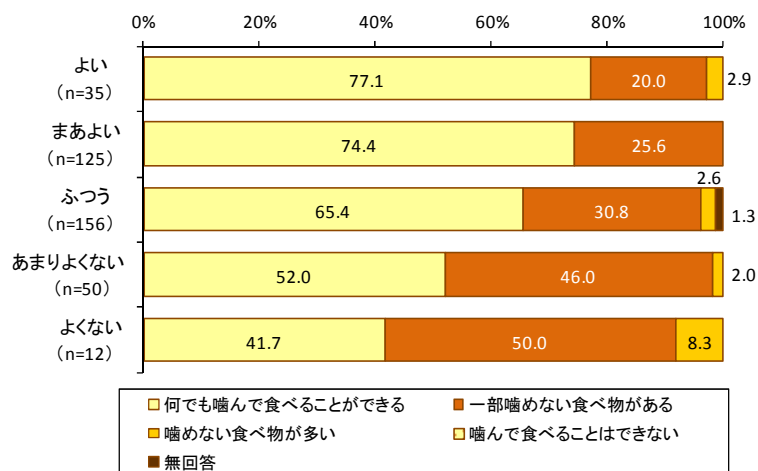
## (11) 未成年と妊婦の喫煙率の推移



妊婦の喫煙率、未成年の喫煙率は、ともに目標に向かい、低下していた。

資料：10代の健康に関する市民意識調査、母子保健に関する市民意識調査

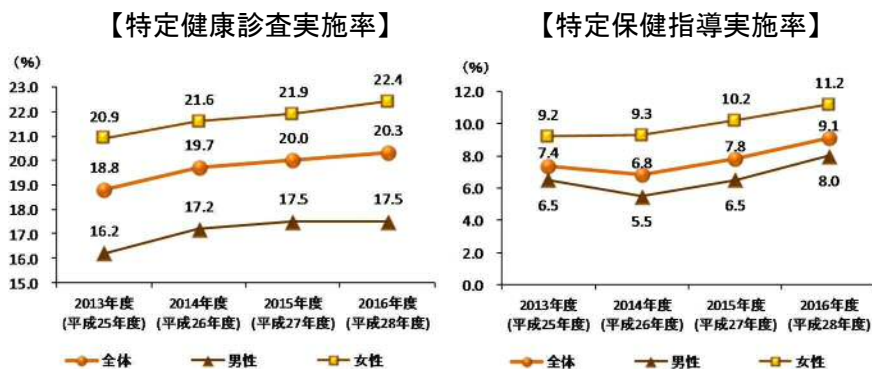
## (12) 70歳代の咀嚼状況（健康状態別）



70歳代で咀嚼良好者の割合は66.3%であった。健康状態別にみると、「よい」「まあよい」では「何でも噛んで食べることができる」が7割を超えていたが、「あまりよくない」「よくない」では「一部噛めない食べ物がある」の割合が高くなり、「よくない」では「噛めない食べ物が多い」が8.3%となっていた。

資料：健康づくりに関する市民意識調査

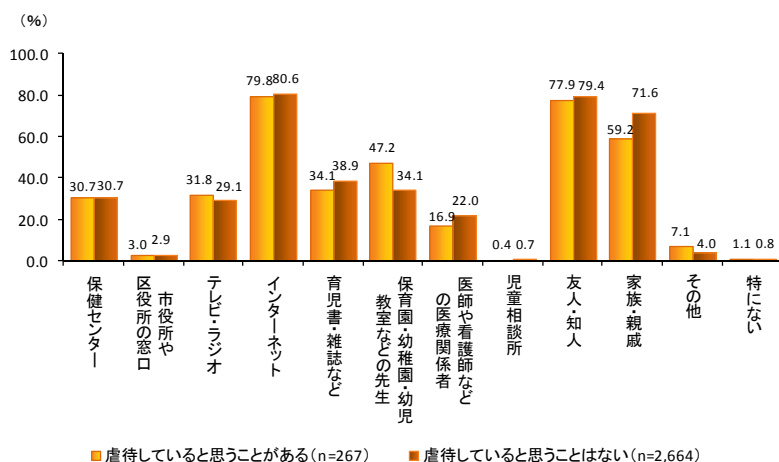
### (13) 特定健康診査実施率と特定保健指導実施率の推移



特定健康診査実施率と特定保健指導実施率はともに上昇していた。

資料：札幌市保健福祉局保険医療部

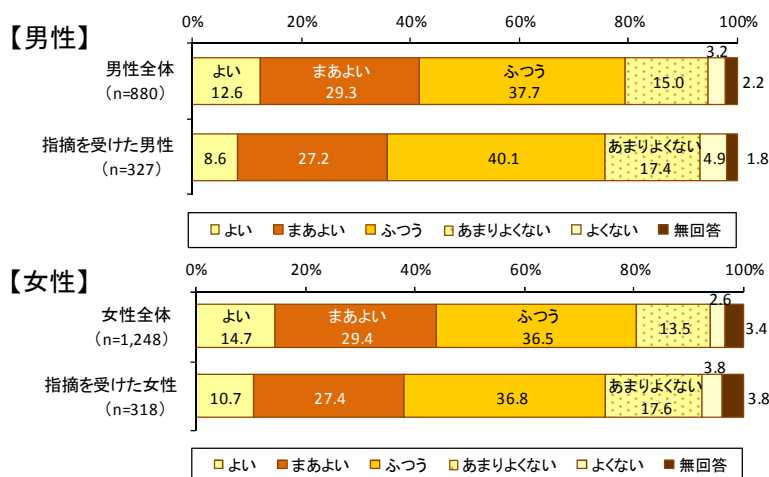
### (14) 育児情報の入手先（虐待に対する意識の有無別）



育児情報入手先は、虐待していると思うことが「ある」「なし」とともに「インターネット」「友人・知人」が多いが、「ある」では、「家族・親戚」の割合が「なし」よりも低く、「保育園・幼稚園・幼児教室などの先生」の割合が「なし」よりも高かった。

資料：母子保健に関する市民意識調査

### (15) 健診で高血圧、脂質異常、糖尿病のいずれかの指摘を受けた人の健康状態（性別）

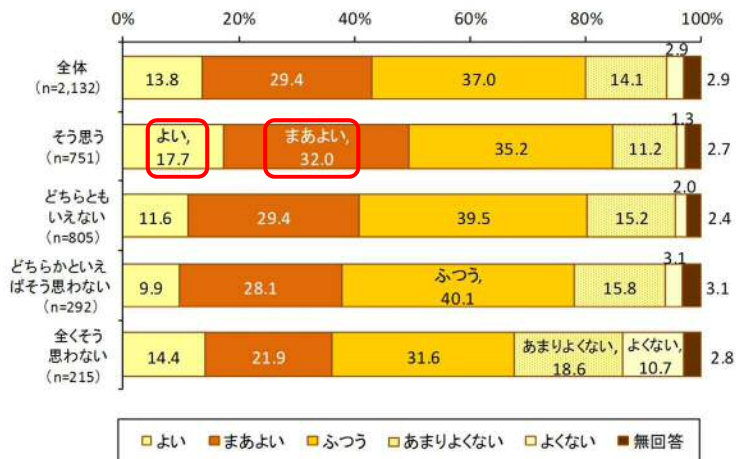


70歳代を除く、全年代で過去1年間に健診で、高血圧、血中の脂質異常、糖尿病と指摘を受けた人は、自分の健康状態について「よい」「まあよい」と回答した割合が低い傾向があった。

資料：健康づくりに関する市民意識調査



## (16) 健康状態（お互いに助け合っていると思う意識別）



お互いに助け合っていると思う人の方が、自分の健康について、「よい」「まあよい」と回答した人の割合が高い傾向があった。

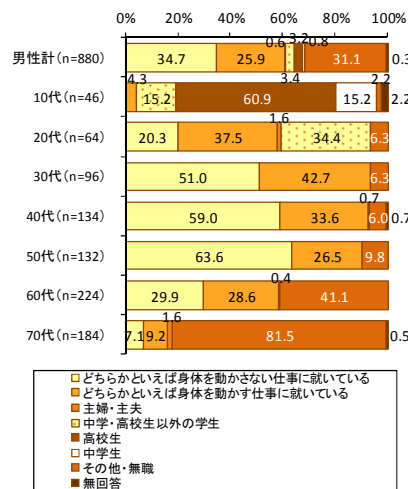
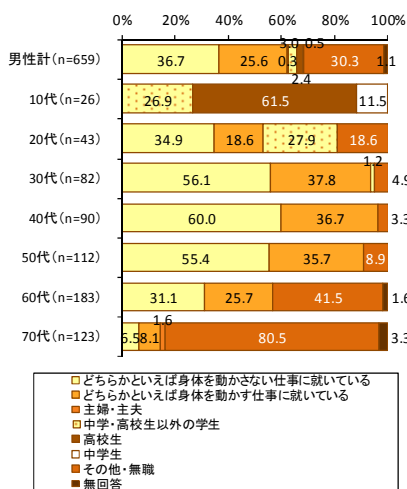
資料：健康づくりに関する市民意識調査

## (17) 職業（性別・年齢別）

### 【男性】

(2012年 (平成24年))

(2017年 (平成29年))

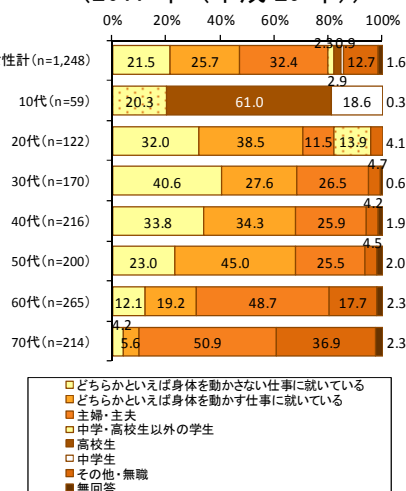
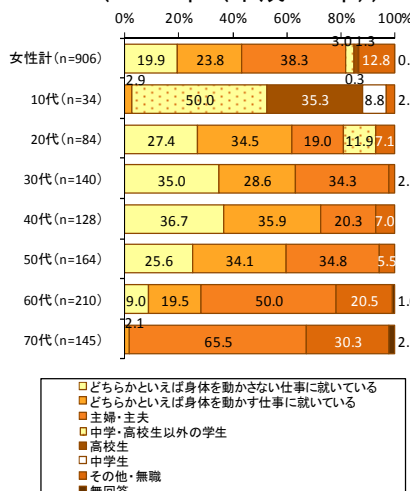


男性の20歳代では、「どちらかといえば身体を動かす仕事に就いている」の割合が計画策定時より上昇していた。一方、50歳代は、「どちらかといえば身体を動かさない仕事に就いている」の割合が高くなっていった。女性は策定時より「仕事に就いている」割合が上昇しており、年代別では、40歳代を除く全ての年代で上昇していた。

### 【女性】

(2012年 (平成24年))

(2017年 (平成29年))

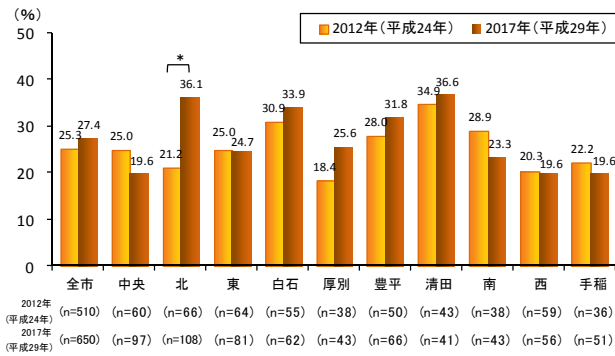


資料：健康づくりに関する市民意識調査

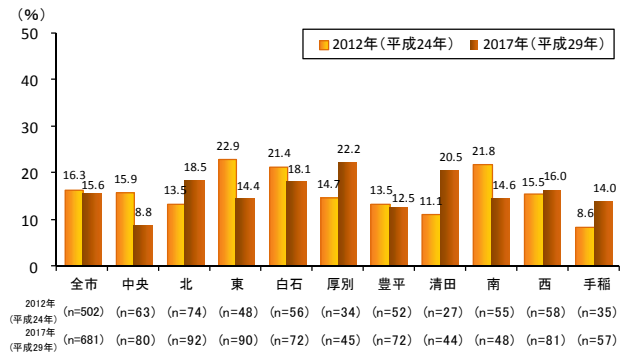
# 資料編 5 区別の傾向

資料：健康づくりに関する市民意識調査  
\*有意差あり

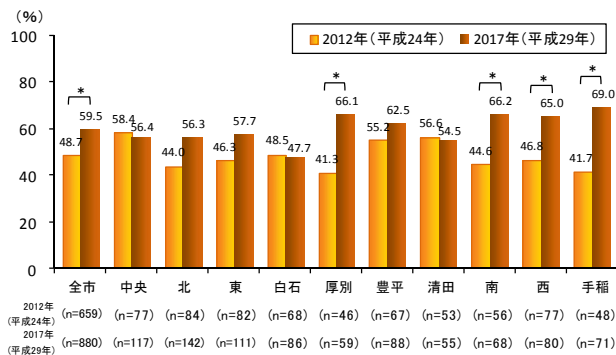
(1) 20~60 歳代男性の肥満者の割合



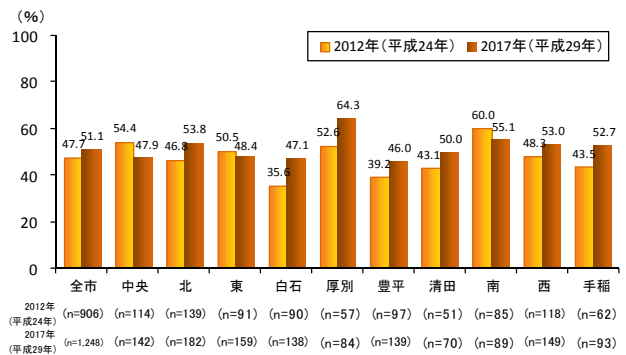
(2) 40~60 歳代女性の肥満者の割合



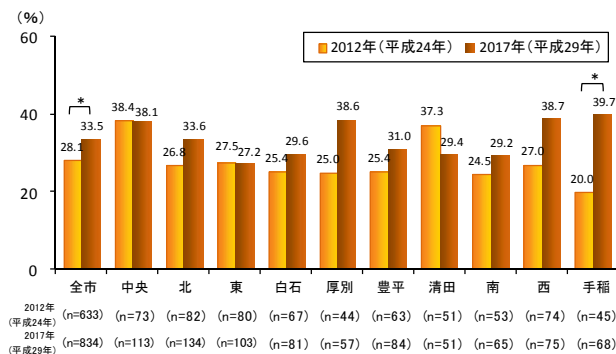
(3) 意識的に運動している15歳以上の男性の割合



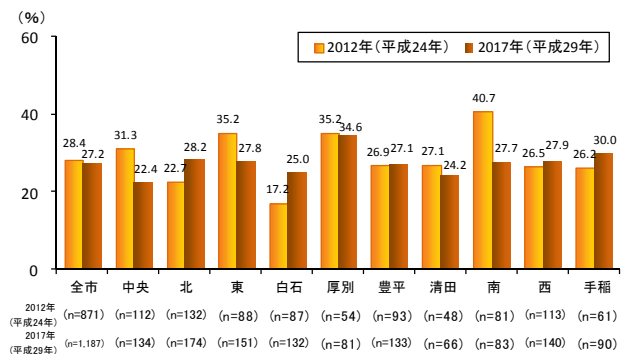
(4) 意識的に運動している15歳以上の女性の割合



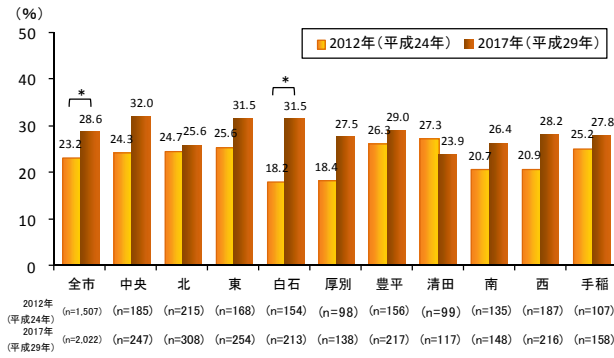
(5) 運動習慣のある男性の割合



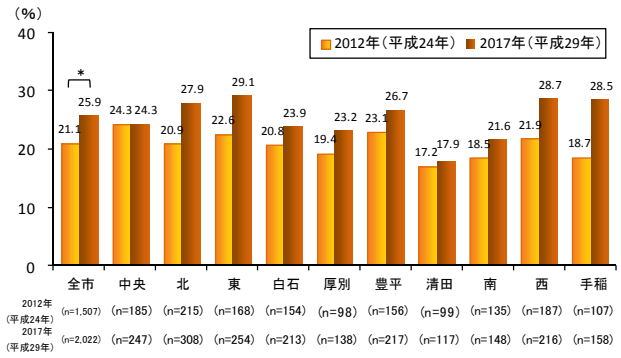
(6) 運動習慣のある女性の割合



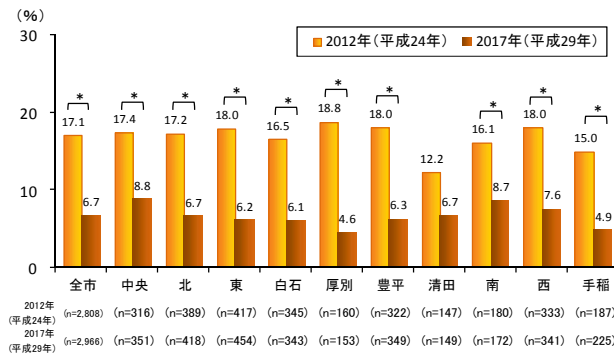
(7) 睡眠により疲労がとれない人の割合



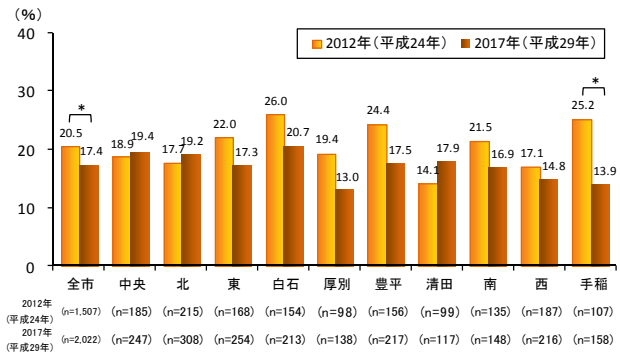
(8) ストレスを感じている人の割合



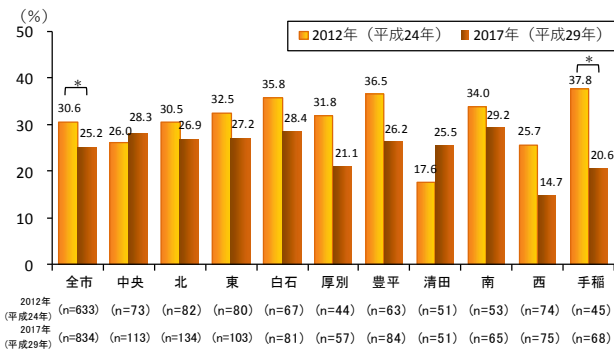
(9) 妊婦の飲酒の割合



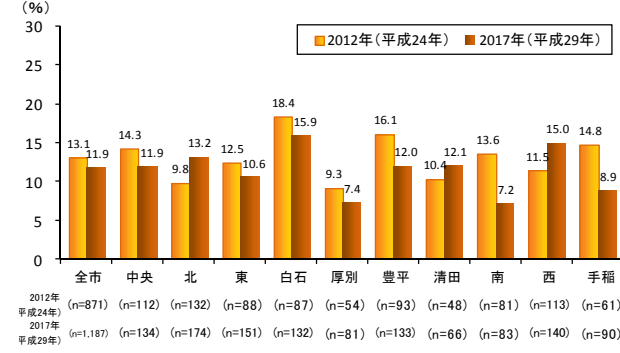
(10) 成人の喫煙率



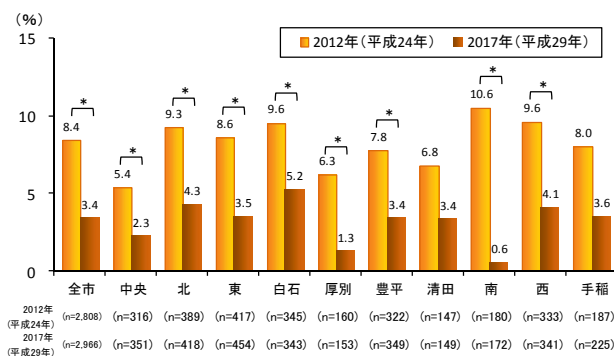
(11) 成人の喫煙率 (男性)



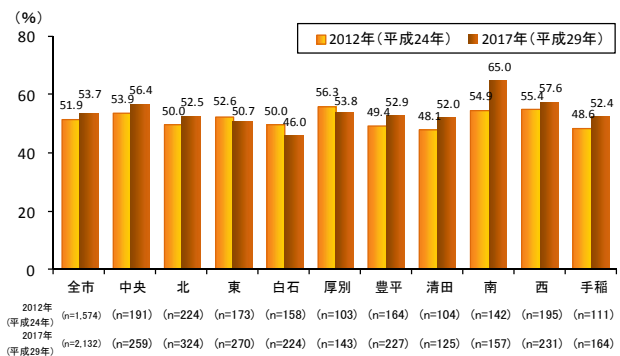
(12) 成人の喫煙率 (女性)



(13) 妊婦の喫煙率



(14) 1年以内に歯科健診を受診した人の割合



## 資料編 6 札幌市健康づくり推進協議会委員・中間評価委員会委員

### 1. 札幌市健康づくり推進協議会委員

◎会長 ○副会長

(五十音順・敬称略)

氏名	所属
荒木 美枝	公益社団法人北海道看護協会 専務理事
金内 明子	手稲区連合町内会女性部長連絡協議会 会長
石黒 真司	一般社団法人札幌青年会議所 理事
市野 美砂子	札幌市食生活改善推進員協議会 会長
○ 枝村 正人	一般社団法人札幌市医師会 地域保健部長
小野寺 正	札幌市中学校長会保健体育部部长 (札幌市立手稲西中学校長)
小林 恒男	一般社団法人札幌市老人クラブ連合会 常任理事・事務局長
近藤 裕孝	札幌市スポーツ推進委員会 理事長
坂本 哲也	連合北海道札幌地区連合会 副会長
笹渕 吉弘	手稲区連合町内会連絡協議会 会長
佐藤 修二	札幌市産業医協議会 会長
高橋 一行	一般社団法人札幌歯科医師会 理事
高柳 司	札幌市民生委員児童委員協議会 理事
館岡 秀孝	札幌市小学校長会 会計 (札幌市立屯田南小学校長)
田中 敦子	市民公募委員
田畑 隆政	一般社団法人札幌薬剤師会 副会長
◎ 玉腰 暁子	北海道大学大学院医学研究院 社会医学分野 公衆衛生学教室 教授
西田 史明	札幌商工会議所中小企業相談所 所長
野宮 修治	北海道国民健康保険団体連合会 事務局長
花井 篤子	北翔大学 生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 教授
道端 和則	健康保険組合連合会北海道連合会 常務理事
宮崎 由美子	公益財団法人北海道労働保健管理協会 常務理事
宮間 利一	市民公募委員
向川 泰弘	一般社団法人札幌市私立保育園連盟 副会長
吉田 めぐみ	公益社団法人北海道栄養士会 副会長

### 2. 中間評価委員会委員

◎委員長 ○副委員長

(五十音順・敬称略)

氏名	所属
荒木 美枝	公益社団法人北海道看護協会 専務理事
○ 枝村 正人	一般社団法人札幌市医師会 地域保健部長
大西 浩文	札幌医科大学医学部 公衆衛生学講座 教授
笹渕 吉弘	手稲区連合町内会連絡協議会 会長
高橋 一行	一般社団法人札幌歯科医師会 理事
館岡 秀孝	札幌市小学校長会 会計 (札幌市立屯田南小学校 校長)
◎ 玉腰 暁子	北海道大学大学院医学研究院 社会医学分野 公衆衛生学教室 教授
西田 史明	札幌商工会議所中小企業相談所 所長
野宮 修治	北海道国民健康保険団体連合会 事務局長
宮崎 由美子	公益財団法人北海道労働保健管理協会 常務理事
吉田 めぐみ	公益社団法人北海道栄養士会 副会長

## 資料編 7 審議経過

開催日	会議等	内容
2017年(平成29年) 9月6日	2017年度(平成29年度) 健康づくり推進協議会	中間評価委員会の設置について
2018年(平成30年) 3月7日	第1回中間評価委員会	市民意識調査結果の概要報告と課題の確認・見直しの方向性、今後のスケジュールについて
2018年(平成30年) 6月26日	第2回中間評価委員会	中間評価の方向性、基本要素ごとに見えてきた課題について
2018年(平成30年) 8月21日	第3回中間評価委員会	全体的な中間評価と今後の計画推進、年代別の健康づくりに向けた取組について
2018年(平成30年) 10月2日	2018年度(平成30年度) 健康づくり推進協議会	「健康さっぽろ21(第二次)」中間評価原案の審議
2018年(平成30年) 10月23日	「健康さっぽろ21(第二次)」中間評価に係る関係課長会議	「健康さっぽろ21(第二次)」中間評価と今後の推進について
2018年(平成30年) 11月1日	保健福祉施策総合推進本部幹事会 兼企画調整会議幹事会	「健康さっぽろ21(第二次)」中間評価と今後の推進について

## 資料編 8 用語解説

### あ

#### 育児支援ネットワーク事業

市内の医療機関において「育児支援が必要」と判断された親子に対し、医療機関と各区の保健センターが連携を図りながら、育児負担の軽減および児童虐待発生予防のため家庭訪問等の支援を行う事業

#### 一般世帯

病院や寮などの施設以外の世帯。

#### 運動習慣のある人

1回30分以上の運動を週に2回以上行い、1年以上継続している人。

#### H I V

ヒト免疫不全ウイルスといわれ、リンパ球に感染すると、免疫機能が低下しエイズ（後天性免疫不全症候群）を発症させる。

#### S I D S（乳幼児突然死症候群）

今まで元気であった乳幼児が、何の兆候も既往歴もないまま、主に睡眠中に突然亡くなる疾患。

#### 親性

親性とは、子どもの誕生に伴い変化する父親と母親としての意識や行動等のこと。

### か

#### 介護保険第2号被保険者

介護保険の被保険者のうち40～65歳未満で、脳血管疾患・認知症など、国が定める16疾病に罹患した者。

#### ゲートキーパー

悩んでいる人に気づき、声をかけ、傾聴し、必要な支援につなげ見守るボランティア。

#### 健康格差

本計画においては、疾病、障がいの有無、健康

への関心の有無、経済的要因など、性差・年齢差以外の健康に影響を及ぼす要因により生じる健康状態の差をいう。

#### 健康寿命

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

#### 健康増進法

2002年（平成14年）に国民の健康維持と現代病予防を目的として制定された法律。

#### 合計特殊出生率

15～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。

#### 高齢単身世帯

65歳以上の人1人のみの世帯。

### さ

#### 札幌市がん対策推進プラン

がん予防、早期発見・早期治療、がん患者やその家族等への支援などを含めた、総合的ながん対策を進めるための計画。「健康さっぽろ21（第二次）」の実施計画として位置づけられ、計画期間は2017年度（平成29年度）から2023年度。

#### 札幌市生涯歯科口腔保健推進計画

生涯にわたる歯科口腔保健対策を計画的に推進するため、健康さっぽろ21（第二次）に定める「歯・口腔の健康」に関する実施計画。計画期間は2017年度（平成29年度）から2023年度。

#### 札幌市食育推進計画

札幌市の食育に関する取組を総合的かつ計画的に進めるために策定した計画。現在は3次札幌市食育推進計画。計画期間は2018年度（平成30年度）から2022年度。

## 札幌市まちづくり戦略ビジョン

札幌市の目指すべき姿とまちづくりの方向性を示した基本指針。札幌市の最上位に位置づけられる総合計画。

## COPD（慢性閉塞性肺疾患）

主に長期の喫煙が原因で肺胞の破壊や気道炎症が起きる肺の炎症性疾患。咳、痰、息切れを主訴として、緩やかに呼吸障害が進行する。かつて、肺気腫、慢性気管支炎と呼ばれていた疾患。

## 受動喫煙

「自分の意思とは関係なく、他人のたばこの煙を吸わされること」をいう。たばこの煙は、たばこを吸っている人が直接吸う煙（主流煙）と火のついた先から立ちのぼる煙（副流煙）に分けられる。副流煙には主流煙より多くの有害物質が含まれており、受動喫煙で吸わされるのは大部分がこの副流煙。

## 健やか親子 21（第2次）

21世紀の母子保健の取組の方向性と目標や指標を定め、関係機関・団体が一体となって取組む国民運動計画。計画期間は2015年度（平成27年度）から2024年度。

## 生活習慣病のリスクを高める飲酒量

1日の平均純アルコール飲酒量が男性40g以上、女性20g以上。

## ソーシャルキャピタル

社会・地域における人々の信頼関係や結びつきを表す概念。ソーシャルキャピタルが蓄積された社会では、相互の信頼や協力が得られるため、他人への警戒が少なく、治安・経済・教育・健康・幸福感などに良い影響があり、社会の効率性が高まるとされる。

## た

### 多量飲酒者

平均1日に純アルコール60g以上飲んでいる人。日本酒3合以上、ビール500ml缶3缶以上。

### 低出生体重児

体重2,500g未満で生まれた児。

## な

### 乳幼児揺さぶられ症候群

乳幼児を激しく揺さぶることにより、未発達な脳に衝撃が加わり、出血を生じさせる危険がある。場合によっては命を落とすこともある。

### 年齢調整死亡率

年齢構成の異なる地域間でも死亡状況の比較ができるように、年齢構成を調整し、地域比較や年次比較を可能にした死亡率。

## は

### パロメーター

状態・程度を推し量る基準となるもの。指標。

### BMI

体重と身長から算出される、肥満度を表す体格指数。 $BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)})^2$

### 平均寿命

0歳の平均余命

### 保険者

健康保険事業の運営主体をさす。

## ま

### メタボリックシンドローム

内臓脂肪型肥満に加え、高血糖、高血圧、脂質異常のうち2つ以上が重複した状態。1つひとつが軽度でも、重複すると、動脈硬化が急速に進行し、心筋梗塞や脳梗塞などの要因となる。

## ら

### ロコモティブシンドローム（運動器症候群）

骨や筋肉などの「運動器」が衰え、要介護・要支援や寝たきり状態になったり、その危険性が高くなったりする状態。





札幌市健康づくり基本計画「健康さっぽろ 21（第二次）」中間評価と今後の推進

2019 年（平成 31 年）2 月発行

発行 札幌市保健福祉局保健所健康企画課  
〒060-0042 札幌市中央区大通西 19 丁目 WEST19 3 階  
電話：011-622-5151  
FAX：011-622-7221



さっぽろ市  
01 - F06 - 18 - 2332  
30 - 1 - 171